

他地区の公民館との連携による地区の活性化

朝日町山崎公民館



手芸教室



やまざき美術作品展

公民館の沿革・年表

平成14年 山崎地区多目的施設設置
 (旧山崎小学校跡地に、山崎自治振興会が運営主体となつて、山崎地区住民の活動拠点となる地域振興施設として町によって整備され、併せて山崎公民館の活動拠点としても位置づけられた。)

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

・当公民館では、各種講座等において参加者が作成した作品をやまざき美術作品展やあさひ生涯学習フェスティバルに多数出展

1. 都道府県名	富山県	3. 公民館対象人口	878人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	朝日町	4. 建物設置年月日	平成14年8月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	4台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (山崎自治振興会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 219人 <input type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 0人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 219人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)				合計 4人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (研修室、体育館) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ()				

朝日町山崎公民館

OPEN 9:00~12:00(月・水・金曜日) H P <https://www.tkc.pref.toyama.jp/>
 TEL 0765-84-8470 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 山崎地区は、少子高齢化が進展しており、若い世代の参加が少なく、高齢者向けの講座を中心に実施してきたことから、**参加者が固定化**していた状況にあった。
- 本館では、**子どもたち向けの企画を行う**ことで、親世代や祖父母世代からの参加に繋げ、三世代による交流が深まるものと考え、あさひ野小学校区から募集を行うことで、山崎地区以外の子どもたちも募集に加えるとともに、**他地区の公民館との連携**を図ることで、三世代交流の促進を図った。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【郷土料理「みそかんぱ」づくり体験（伝統文化継承活動）】

・山崎地区に伝わる郷土料理「みそかんぱ」づくりを通じて、地元で伝わる風習等を学んだ。作り方を学び、実際に、米を杵でつぶして、手のひらの大きさに丸め、割り箸を刺して、薄いきつね色になるまで炭火で焼くところまで実践した。**伝統的な地域の文化の継承に尽力**している。

【流しそうめん体験・バルーン教室（世代間交流活動）】

・親、祖父母、子どもたちで巨大な流しそうめん体験やバルーンアート教室を行った。そうめんに加えて、参加者が持ち寄ったミニトマトや小さく切ったキュウリも流すなど、一風変わった流しそうめん体験となり、そうめん等を流す方も食べる方も交代しながら楽しめ、明るい交流の場となった。

・町のボランティアサークルの方が中心となり、バルーンアート教室を開いた。他の公民館にも呼びかけ、他の地区の子供たちと学校以外で触れ合うことで、交流を深めていた。動物等をバルーンで制作し、見せ合ったり、遊んだりした。**子供たちが集まれば、親や祖父母も集まり、活気ある活動**になった。



みそかんぱづくり



流しそうめん体験

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果（「みそかんぱ」づくり、流しそうめん、バルーンアート教室）】

● 子どもたちの参加を促すことで、**親世代や祖父母世代の三世代交流が深まった**。また、参加者の多くが、普段、公民館に参加したことがない子どもや親、祖父母の方々からの参加があり、**新たな参加者の掘り起こしにも繋がった**。

● お年寄りの方々が積極的に準備や指導に関わり、**子どもたちもお年寄りも満足して活動を終えることができた**、地域住民の絆が深まった。

【これまでの取組全体による成果・効果】

● 他地区の公民館とも連携することで、他の事業での連携にも繋がりが、**活動の活発化**や互いの講座での**参加者数の増加**にも繋がった。



バルーンアート教室

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

● 自治振興会役員や小学校長、老人クラブ会長、体育協会会長、サークル代表、学識経験者など、関係機関の代表者を委員として選任し、公民館運営審議委員会を年間3回開催

● **公民館活動の改善点等を議論**し、各団体の代表者からの多様な意見等を踏まえながら、**検証や改善**を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

一つの公民館では、なかなかできることも限られるが、関係団体や他の公民館とも連携することで、**公民館ができる活動の可能性が広がる**とともに、**他の団体の活動の活性化にも繋がるもの**と考えられるため、さらなる連携を深めることが大切である。



クリスマスケーキづくり教

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

少子高齢化が進展している中で、**普段交流のない世代との交流を深める企画を増やして**いきたい。高齢者の知識や技能等を活かし、活動の中心となって準備や指導をしていただくことで**高齢者にも若年者にもウィンウィンな企画**を目指したい。また、他地区の公民館との連携をさらに深めて、それぞれの地区の活性化にも繋げていきたい。



七夕飾りづくり

交流による地域活性化

南砺市南山見交流センター



公民館設立70周年記念事業



地域づくり協議会設立総会

公民館の沿革・年表

- 昭和22年 南山見公民館設立
- 昭和28年 若妻・和敬クラブ、青年学級等各種団体結成
- 昭和44年 富山県保健福祉活動推進地区指定
- 昭和53年 南山見公民館竣工、グラウンド完成、少年研修館、成・壮年部結成、地区体育祭・文化祭開始
- 昭和57年 体育館完成、みどりの少年団結成
- 平成元年 富山県教育委員会優良公民館表彰(2回目)
- 平成29年 設立70周年記念式典・記念事業開催
- 平成31年 公民館解散、南山見地域づくり協議会発足

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 南山見公民館設立70周年記念パーティの様様
平成29年5月に開催した、設立70周年を祝う「ジャズライブ&ワイン・フレンチパーティ」の様様である。地元出身のサクソフォン奏者とシェフを招聘し、盛大に開催した。300名を超える地域住民が参加し、公民館の歩みと未来を語り合った。
- 南山見地域づくり協議会設立総会の様様
設立70周年記念事業から2年後の平成31年4月、**小規模多機能自治推進により、公民館、自治振興会、社会福祉協議会を一本化して、地域づくり協議会を設立した。**

1. 都道府県名	富山県	3. 公民館対象人口	931人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	南砺市	4. 建物設置年月日	昭和53年3月27日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	30台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (南山見地域づくり協議会)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2140人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3355人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 450人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 145人 (地域づくり協議会井波連合会役員会等) 合計 6,090人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 4人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (施設利用収入)				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (地域づくり協議会理事会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (交流センター、サロン会館併設) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (井波にじいる保育園、井波小学校、井波中学校、地域づくり協議会井波連合会、NPO法人アイウェブ、南砺市社会福祉協議会、南砺市教育委員会・福祉課、農組法人ファーム八乙女)				

南砺市南山見交流センター

OPEN 8:30~22:00
TEL 0763-82-5176

HP <https://minamiyamami-kc.7104.info/>
SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 当地区は65歳以上の**高齢化率が30%を超える超高齢化社会**である。老人クラブ等高齢者の活動は活発であるが、イベント的開催が主となっており、**日常的な活動が課題**である。
- 世代間交流は、**少子化の進行により、参加者の減少が問題**となっている。
- 地域の**生活課題**としては、**イノシシ等の害獣対策、空き家対策、屋敷林等の枝葉処理対策、公共交通の不便等**である。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【「月曜サロン」による同世代交流の日常化(高齢者の学び支援)】

交流センターに隣接する旧保育園を市から譲渡してもらい、平成30年に、八乙女サロン会館をオープンさせた。このことにより、本協議会健康・福祉部会の所属団体である、地区社会福祉協議会が主体となって、**毎週月曜日に「月曜サロン」を自由に実施**できるようになった。健康体操、歌唱、ゲーム、制作活動、講座、栽培作業等活発な活動を展開している。

【行事内容の工夫による世代間交流の活性化(地域振興や伝統文化継承活動)】

新型コロナウイルス感染が全国に拡大しつつあった令和2年2月、三世代交流の集いを何としても開催したいという思いで**関係者が知恵を出し合い、感染予防を講じながら**、伝統文化、制作活動の伝承と軽スポーツ、餅つき等による交流を行った。児童クラブ終了式を同時開催したことも功を奏し、100名を超える参加者で盛り上がった。この後、コロナ禍で通常通りではないが、内容を工夫して、三世代交流ラジオ体操・ミニマラソン、タイムカプセル開封事業、ふる里探訪八乙女トレッキング、八乙女文化祭・敬老の集い等を実施した。4年度は、八乙女フェスティバル・体育祭も3年ぶりに開催する予定である。

【地区住民参加を呼びかける講座や講習会による生活課題の解決(課題解決に向けた取組)】

本協議会まちづくり部会が主体となり、研究協議、講座、現地調査、講習会等を開催し**地区住民の参加を呼びかけ、生活課題について改善**を図ってきた。



山の植物でロープ作り



ふる里探訪八乙女トレッキング

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果】

- 「月曜サロン」は、新しい発見や学びが多いため、参加者は年々増加しており、**同世代交流の日常化が実現**した。
- 世代間交流の各事業は、児童クラブの活動と併せて実施することにより、子供たちや親世代の参加率が増加した。高齢者は以前からも参加者は多かったが、**子供の参加が増えることで、より活発に活動するようになった**。これらのことで、世代間交流は活性化した。
- 生活課題については、**イノシシ恒久柵・電気柵地区全域設置、屋敷林等枝粉砕機設置、市による枝等回収事業実施等の成果**があった。



タイムカプセル開封事業

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 協議会長、4部会長、参与、顧問、監事、3支部代表、町内会長代表等による理事会を年4回開催。
- 地域づくり協議会の**現状や課題、活動ごとの振り返りや次回への改善点等を協議**している。多様な観点から意見を出し合い、**検証・改善**を行っている。
- 南砺市南砺で暮らしません課やなんと未来支援センター、地域づくり協議会井波連合会と**連携して運営**している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

理事会をはじめ、「まちづくり部会」「健康・福祉部会」「学習・スポーツ部会」「安全・防災部会」の4部会、「会報編集委員会」「ふるさとの歴史文化調査委員会」等、**構成部会・委員会での決定事項を尊重した協議会運営を大切に**している。また、**行政や関係機関との連携・協力を重視した協議会課題の解決を目指**している。



理事会での協議

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

少子高齢化、地域のつながりの希薄化、生活問題等様々な課題が山積している。まずは、同世代、世代間を問わず、**地区住民が様々な活動により交流し地域の絆が深まるように事業内容を改善し実践**していきたい。また、**住民が生涯にわたって学び続けるとともに、よりよい生活を営むための活動を工夫**していきたい。次の大事業は、**令和5年度末の「地区歴史書」の発行**である。



三世代交流の集い



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

野々市生活学校は最高齢者は90歳、会員の8割が富奥地区の高齢者の女性となっている。団体としてぼかし作りやフードドライブ等の活動を行っているが、児童・生徒や学生達との関わりはなく、高齢という事も活気が無くなってきていた。高齢になり「頼りにされる」事や「生き甲斐」を感じる機会が減少していた。同時に、石川県立大学から「ゼミの学生達に活気や自主性が感じられない。社会人になってから自主性を発揮出来るように指導してほしい。」と依頼があった。

こうした地域課題解決に向けた公民館の取り組みとして、生活学校には、高齢者にも出来ることがあり役立つ活動が出来るという自信を持ってもらうため、SDGsの周知を目的に小学生に対してエコバッグ作りを指導してもらう提案をした。また、県立大学には、公民館事業に参画することで自主性、協調性を養うことを提案した。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

●野々市生活学校に対して事業の協力要請を行っている。小学生を対象とした夏休みの体験教室ではエコバッグ作りだけではなく、簡単な調理実習を行い試食や洗い物や片付けまでの指導を行っている。また、一人暮らしの男性の為に簡単調理法を学ぶ「男子厨房」の講師も務めている。

県立大学の学生の自主性を養う機会として、地域住民との交流を深める事業であるグラウンドゴルフ大会や、トリプルソフトバレーボール大会への参加を促している。

生活学校とTOMITO（ゼミの名称。「TOMITO (TOMIOKU TO TOMONI)」）、市民活動センター登録団体「e-やん」が集結し、年に一度「夏の富公祭」を行い、県立大学で収穫した野菜や果物、e-やんが作ったお菓子の販売、フードドライブを行っている。イベントの際は団体名で呼ぶのではなく、公民館が用意した個別のネームプレートを着け高齢者も学生も地域の役員も対等な関係で、1人1人が役割を担っている責任感を持たせる工夫をしている。

●特徴的な活動として5年前から「富奥文芸講座」を開催している。読書はしたいが読む事が困難になってきたという高齢者の声を聞いて、金沢市で朗読小屋を主催する女優に石川県の文豪の作品を朗読してもらう。開演前には「待合いの茶席」を設けサークルによるお茶のもてなしをし、参加者同士、町内会を超えた交流を図っている。



3. 取組による成果や効果

富公祭では生活学校の会員1人1人に役割を振り分けたことで、各自がやりがいを感じて生き生きと活動する姿が見られるようになった。

県立大学では新入生に既存のメンバーがノウハウを伝授し、自主的に公民館事業に参加する様子が見られた。グラウンドゴルフ大会では順位決めの間に行うホールインワンゲームで、参加者に賞品を渡す役割を任せたと、公民館からの指導はしなくても新入生が笑顔で言葉を交わしながら役割を果たしていた。大会中も高齢の参加者達に指導を受けるなど、和気あいあいとした世代間交流の場面があった。



4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識経験者や自治会関係者、小学校校長など5名で構成する公民館運営審議会を年間4回開催している。
- 公民館事業の運営の協力者である地域住民（10名）で構成する執行委員会を年間4～5回開催している。
- 事業終了後や来館時に参加者又は利用者に直に意見や要望を聞いている。
- 県立大学の学生には、年度初めに公民館との繋がりや事業への取り組み方等を伝えている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

年代や生活様式、性別などにかかわらず参加出来る事業を企画し、3世代で出来る物作りや個人では体験出来ない講座に参加してもらうことなど、事業を通じて年代や町会を超えた交流が生まれることが大切であると考えている。そのため、年度毎に時代のニーズにあったテーマに沿った企画を考えて、Face to Faceの温もりを感じられる事業を行ってきたい。



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

防災コミュニティセンター併設という事もあり、地域住民には日頃から気軽に楽しく参加出来る事業を通して、大雨や地震などの自然災害に備えるための避難所（自主避難所、予備避難所）であると認識してもらい、防災について考えてもらう。また、公民館主事は防災士の資格を取得しており、生活学校の総会でも防災講座を開催した。公民館主事は市の手話講座にも参加しており、ろう者にも身近な公民館となるよう、今後はさらに活動の範囲を拡げていきたい。



地域とともに子どもたちの成長と安全を守る

珠洲市立正院公民館



子ども会話し方大会



避難路整備完成

公民館の沿革・年表

- ・昭和21年 珠洲郡正院町立正院公民館として設置
- ・昭和22年 石川県優良公民館表彰受賞
- ・昭和29年 市条例より珠洲市立正院公民館と改称
- ・昭和62年 社会教育会館を廃止
- ・平成5年 石川県優良公民館表彰受賞
- ・平成6年 子ども会育成会指導に尽力し、石川県知事表彰受賞
- ・令和元年 石川県優良公民館表彰受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 正院町こども会話し方大会の様相
令和3年12月に開催した「こども会話し方大会」の様相。小学生19人が参加し、身の回りや学校のこと、体験を通じて思ったこと、夢や希望を題材に発表。
- 津波一時避難場所整備の完成
平成23年6月に避難路完成時頂上で撮影。「地域の宝（こども）は地域で守る」という熱い心と善意の象徴である津波一時避難場所は、あってはならない大災害から命を守るための後世に残す貴重な財産。

1. 都道府県名	石川県	3. 公民館対象人口	1332人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	珠洲市	4. 建物設置年月日	平成14年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1016人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 4997人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,015人	合計	7,028人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <small>（職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人）</small>	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <small>（職員のうち社会教育士の数 0人）</small>	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 2人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（地域の方と花壇整備を行い、癒しの場になるように）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 正院小学校、正院青年福祉員、正院地区自主防災組織、正院婦人会、珠洲警察署、珠洲市福祉課、珠洲市教育委員会				

珠洲市正院公民館

OPEN 8:30～17:00 H P
TEL 0768-82-0416 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 正院町子ども会話し方大会は「子どもたちが心身ともに大きく真っ直ぐに成長していくように」との願いを込めて始まった。地域の子どもたちの心の成長と、地域で子どもたちを育てる意識の高揚を目的としている。
- 東日本大震災が発生した平成23年、「地域の宝（子どもたち）は地域で守る」という地域住民の善意と熱い心により、小学校の背後にある殿山を津波避難場所として整備を進めた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【正院町子ども会話し方大会（子ども体験活動）】

子どもたちを対象とした参加型の事業や世代間交流事業を積極的に実施し、地域・学校・家庭と連携して、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりに努めている。特に、50年以上の長きにわたり継続して開催している「正院町子ども会話し方大会」は、子どもたちの豊かな人間性を育むとともに、毎年多くの地域住民に微笑ましい感動を与えている。平成28年度には、市の生涯学習推進大会でも発表し、多くの市民に感動を与えている。



発表する児童

【殿山津波一時避難場所の整備・保存（防災）】

整備にあたっては、行政に一切頼ることなく、参加した地域ボランティアが、土木、建築、測量、舗装など各々の職業を活かして完成させた。整備した後も毎年2回、地域ボランティアとともに除草や施設の点検を行うなど手厚い維持管理を行っている。



避難路づくり作業

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果（正院町子ども会話し方大会）】

- 子どもたちの人間性、心の成長
- 地域の世代間交流
- 地域住民が地域の子どものために目を向ける機会と地域全体で子どもを育てる機運の醸成につなげることができた。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- 地域住民が主体的に動いた避難路の整備など、子どもたちの安全を守るだけでなく地域住民の防災意識の高揚を図ることができた。

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 事業を実施するごとに事業報告書を作成し、参加者の意見などを参考に事業の点検、評価を行い、次年度の企画に活かしている。
- 公民館振興協力委員会で年間事業について審議・検討している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館は子どもからお年寄りまで楽しく学んだり、健康の増進を図ったりする場所である。そのために、文化的体育行事や自主的な教室を開催すると同時に、行政と連携しながら健康に関する取組を長期的に継続するよう努力している。また、公民館は防災の拠点でもある。区長会や自主防災組織と連携を図りながら、住民の防災意識を高め、いざという時に備える工夫をしている。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

小学生や中高生が、地域の伝統芸能を学んだり、長期休業中に学習したりする場所として、公民館を大いに活用する方策を模索する。特に、中高生が小学生を教える場面の創出を目指す。各種団体や学校と連絡調整を図りながら具体的な実施に向け進めていきたい。

語り継ぎたい ふるさと 佐分利

おい町佐分利公民館



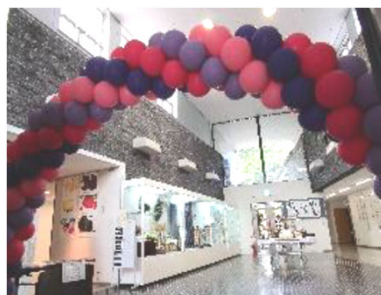
佐分利公民館外観

公民館の沿革・年表

- ・平成6年 佐分利公民館開設
- ・平成24年 佐分利公民館生涯学習推進委員会設置
- ・平成26年 語り部部会による昔話の掘り起こし着手
- ・平成28年 施設改修（館内LED化）
- ・令和3年 「さぶり物語 歴史と昔話」発行

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 佐分利地区文化祭
公民館教室で作成した作品や、小学生の絵画等の展示、スイーツ作り教室など開催期間中に様々なイベントも実施している。
- 合宿通学事業（防災教室）
災害についての学習や、簡易ベッドなど災害時用品を実際に組み立てるほか、町内他地域の同世代児童との交流の場にもなっている。



佐分利地区文化祭



防災教室

1. 都道府県名	福井県	3. 公民館対象人口	1373人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	おい町	4. 建物設置年月日	平成6年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（○○地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1651人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 7325人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計		8,976人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人）	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 2人 （職員のうち社会教育士の数 0人）	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 3人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述（ ）	<input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター	<input type="checkbox"/> ふるさと交流センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	佐分利保育園、佐分利小学校、大飯図書館、佐分利地区区長連絡協議会、ばんば踊り保存会、佐分利見守り隊、おい町教育委員会事務局

おい町 佐分利公民館

OPEN 8:30~17:15 H P <http://www.town.ohi.fukui.jp/>
 TEL 0770-78-1211 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・現在、都会と変わらぬ情報の取得と生活様式（核家族化、子どもの遊びの変化、物の豊かさ等）の中で大人も子どもも“自分達の生まれ育った地域に対する関心”が薄れてきている現状から、子ども達に地域愛、ふるさとを学習する企画が必要と考えた。
- ・佐分利地区には日本の歴史に励行する史実があるが、現在その歴史を継承していく活動はしておらず、地区住民も消えゆく佐分利の史実について懸念をもっていた。
- ・公民館設置の地域住民で構成される生涯学習推進委員会において、「佐分利地区の昔話を掘り起こし子ども達に語り継ぎたい」という委員の熱い思いから、委員会での企画を取り上げることとした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

- ・平成26年度 生涯学習推進委員会の中に「語り部部会」を立ち上げ、月1回の定期会議を実施。具体的な活動内容などを話し合い、佐分利地区全戸に“昔話を教えてください”というチラシの配布を始めとして、語り部の育成、掘り出した話を文章化する作業など行うこととした。
- ・家族形態や世代間コミュニケーションの変化により、昔話を家の祖父母から聞いたという方はほぼ90歳にちかい高齢者になっていて、当初は思いのほか収集できずにいた。
- ・委員が集めた2、3話について話し合っても、時代背景や実質不可能な行動について、公民館の昔話として世の中に出していいものか文責など基本的な考え方の共通理解について、意見、議論を行った。
- ・佐分利地区の昔話は、戒めや教訓といったものではなく、この地区の歴史に基づくものや、地形に深くかかわりがあることから、この地区の歴史を紐解くことが必要であり、語り部部会では大飯町誌を始めとして様々な書籍を用いて歴史の研究も同時に進めていった。
- ・語り部の育成活動として、まず生涯学習推進委員が語るために近隣市町の語り部講師による学習を兼ねた「昔話発表会」を地区文化祭の中で行う「語り活動」を始める。
- ・長期休暇に公民館を利用する子ども達に、掘り出した昔話を少しずつ語って聞かせ、子ども達にその物語の絵を描いてもらい、記憶に残る活動にも力を入れていった。



生涯学習推進委員会



語り活動

3. 取組による成果や効果

- ・公民館活動の中で、継続して歴史や昔話の掘り起こしを地域との連携により地道に行うことにより、少しずつではあるが地区の地名や遺跡、自分達の苗字の由来、先祖の軌跡などを語り合う姿が見受けられる。また、歴史的現場への関心が高まり現地確認などの機運が盛り上がり、訪れてみたという話もでてきた。
- ・毎年の地区文化祭で「語り部会」を開催することにより、活動に参加する公民館来館者数が増加する。
- ・佐分利地区には自主運営グループ“佐分利の歴史を学ぶ会”があり、主に石山区の山城に纏わる活動をしているが、お互いの活動について相乗効果があり事業展開ができています。



石山城跡

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・数年継続して歴史と昔話の掘り起こしを行なった、その成果として資料が多く集まったことで、一冊の本にまとめる意見が出てきた。それとともにこの本をもっと身近なものとするため、佐分利14地区について地区の中で語り繋がれている昔話の掘り起こしを行うこととした。
- ・一冊の本にまとめていくという制作作業において、一人でも多くの方に関わっていただく方針で、ご先祖様についての聞き取り、本の挿し絵、各区の保存物の取材等について、今まで以上に区民の中での活動を展開していくこととなった。月1回の会議開催のスケジュールであったが、新たな協議事項があるときは会議を開催する方向で、月に2回から3回の会議開催となっていった。
- ・この活動は語り部部会を中心に行い、2カ月に1回開催される生涯学習推進委員会にて進捗状況を報告し内容について議論を行った。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・公民館は地区住民に知識、技術の提供とともに住民の想いを語り、住民同士を繋いでいく場である。それは住民同士だけでなく地区の保育所、小学校も同じように地区住民と保育、教育に関係する各団体を繋いで連携協働する潤滑油のような存在の公民館でありたい。



みんなでラジオ体操

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ・8年をかけ作成できた冊子「さぶり物語 歴史と昔話」は、公民館でのイベント等で昔話を語るなど、地区住民にふるさと佐分利の歴史を再認識してもらおう活動を実施していきたい。
- ・佐分利地区においても一人暮らしがちな高齢者が増える傾向にあるが、冊子「さぶり物語」が架け橋になり、公民館に高齢者や子ども達、そしてその家族も巻き込みながら、次の掘り起こしや新たな活動を展開していきたい。



さぶり物語 歴史と昔話

コミセンでつながる大関助け合いのまちづくり ～子ども、地域、学校の協力で地域創造～

坂井市大関コミュニティセンター



賑わいをみせる2階カフェコーナー

笑顔大好き大関♡住民みんなが助け合うまちづくり



ごみゼロに向けてアイデアを出し合う

公民館の沿革・年表

- ・昭和30年 大関公民館創立（大関農協2階）
- ・昭和54年 坂井町就業改善センター完成（前公民館）
- ・平成16年 大関友遊館完成（現コミセン）
- ・平成27年 大関コミュニティセンターに移行
- ・平成30年 第一次大関助け合いのまちづくりプラン策定
- ・令和3年 大関コミュニティセンター運営協議会を設置
- ・令和3年 福井県公民館広報紙コンクールAコース「優良賞」受賞
- ・令和3年 第二次大関助け合いのまちづくりプラン策定

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

●あたらしいカフェコーナーつくり事業

ー完成したカフェコーナーの様態ー

地域住民からアイデアを募集し、子どもと大人と一緒に手作りのした。坂井中学校美術部が制作した四季の絵画パネルが1階カフェコーナーに掲示され、来館者を楽しませている。

●クリーンアップ作戦「ゴミ探検」の様態

「ゴミ探検」と称して子どもと大人が主要道路のゴミ調査を行う10年計画の事業。ゴミ探検後は、ゴミの数を集計し、全員で「気づいたこと」「自分にできること」などを話し合った。

1. 都道府県名	福井県	3. 公民館対象人口	2838人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	坂井市	4. 建物設置年月日	平成16年3月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	約100台	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (坂井市)					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 589人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3305人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 300人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 8762人 (大関コミセンやよい寮100人、まちづくり協議会事業150人、児童館利用6000人他)				合計	12,956人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人					
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (SDGs、小中学校との連携事業)					
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (大関児童館) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (大関小学校、坂井中学校、大関まちづくり協議会、大関ふきの会、大関地区区長会、青少年育成坂井市民会議大関支部、大関地区体育協会、民生委員、県民せいきょう坂井きらめき、スマイルネットワークさかい、坂井市まちづくり推進課)					

坂井市大関コミュニティセンター

OPEN 8:30~21:30

TEL 0776-72-1957

SNS 050wwwps(LINE)

SNS ozeki_communitycenter(Instagram)





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

現代は住民の生活様式の多様性や地縁血縁の希薄化により、コミュニティセンターや地域社会に求めるニーズも多様化してきた。また、地域社会を底辺で支えている各種団体の多くが、高齢化や後継者育成の悩みに直面している。一方で、若い世代では近年の災害や国際情勢を反映して、地域社会への貢献や助け合うことの大切さに気付き、ボランティア活動に参加する青年もいる。そうした背景も考慮しながら、大関コミュニティセンターは、地域づくりの拠点として5年前から地域課題解決のための活動を始めた。次第に住民主体の取り組みが実を結び、住民間の連携が強くなってきている。今後はセーフティネット社会の構築につながるよう活動を展開していきたい。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【セーフティネット社会の構築を目指して（取組全体）】

大関コミュニティセンター（以下コミセン）は、地域団体と協力しながら協働のまちづくりを進めている。平成30年に地域課題解決のための「**第一次大関助け合いのまちづくりプラン**」を策定し「**大関助け合いのまちづくり事業**」を実施している。（令和3年には第二次プランを策定）

小中学生は、プラン策定段階から関わっているため事業にも参加しやすいことが大切なポイントである。この事業として「**あたらしいカフェコーナーつくり事業**」「**大関えがお朝市**」「**大関子ども農園**」「**ゴミ探検**」「**#笑顔大好き大関2021写真コンテスト**」などがある。

「**あたらしいカフェコーナーつくり事業**」では、コーナーのアイデアを地域住民から募集し、デザインから建設まですべての工程を住民で行い、誰もが楽しめるくつろぎ空間を作り上げた。

「**大関えがお朝市**」では、地元農家の方が出店し団地の方との交流をはじめ、新しい人との出会いの場となっているほか、大関小学校児童が育てている「**大関子ども農園**」の野菜を児童が出店予定など**事業間連携もできる**ため、多くの住民とつながることができている。

環境保護活動である「**ゴミ探検**」は、小中学生が地域の大人、障害者施設や老人福祉施設入所者の方と一緒に取組み、多種多様な人との交流に繋がっている。

このように、**大関助け合いのまちづくり事業が充実してきたことで、コミセンが地域づくりの活動拠点となってきたことはもちろん、地域住民の居場所ともなってきた。**コミセンが進める事業は、新しい人との出会いや、ゆるやかなつながりの手助けとなるので「大関助け合いのまちづくり事業」の継続でセーフティネット社会を築いていきたい。



みんなで作ろう！ カフェコーナー



目指せ朝市！ 野菜の苗植え

3. 取組による成果や効果

【大関助け合いのまちづくり事業による成果・効果】

- 子どもたちが大人の中で、自分の考えを発表することで自信につながった。
- 子どもと大人と一緒にまちづくり計画を立て、一緒にまちづくりに取り組めるようになった。
- 多くの団体が協力し合い、コミセンを拠点としてまちづくりの活動ができるようになった。
- 障害者施設や老人福祉施設との連携により入所者とも一緒に活動できる。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- 地区内の世代、地域、業種間で**新しい交流が生まれ、新しい人とのつながり**ができた。
- **コミセンが地域住民誰もの居場所**となってきた。



アイデアあふれるプラン策定

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 地域住民代表、大学生など12名（男性4名、女性8名）で構成する運営協議会を年2回開催。コミセンの活動報告を行い委員からの意見をもとに次年度の活動に活かしている。
- 大関助け合いのまちづくり推進委員会において、コミセン提案の事業計画の審査と事業結果の検証・評価を行い、事業結果を、「1年の物語」として大関地区の全世帯に配布している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

コミセンを地域づくりの拠点と考えている。大関地区の各種団体やボランティア団体そして小中学生など、**誰もが協働のまちづくりに参加できるようにコーディネート**し「大関助け合いのまちづくり事業」を実施している。また、3年ごとに見直している「大関助け合いのまちづくりプラン」がセーフティネット社会の構築の基本となるので、**地域の皆さんと助け合いながら事業を実施**していく。



ポイ捨て現場を徹底調査

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 地縁血縁が薄れる時代にあって、新しいつながりを築いていくための活動拠点としていきたい。
- SNSの時代にあっても、あくまで「リアル」にこだわり、**新しい人との出会い、つながりを大切にし、誰もが仲良くなれる居場所を作**っていききたい。そのために、住民手作りの「カフェコーナー」をあたらしい「居場所」としてさらに充実させ、子どもから高齢者までの「**たまり場**」に発展させていく。



絵画が輝く1階カフェコーナー

新しい、楽しいことにチャレンジしましょう

甲斐市竜王北部公民館



竜王北部公民館(3階4階)



Mirai7° 町外講座学習会

公民館の沿革・年表

昭和52年に社会教育法の規定に基づき、竜王町の社会教育の振興と住民の福祉を図るため設置された。
平成16年に竜王町・敷島町・双葉町が合併し甲斐市誕生後、平成23年に市役所庁舎と公民館が併設・竣工され、新公民館を拠点に広く市民に向けて公民館活動を展開している。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

甲斐市は公民館活動が盛んであり、竜王北部公民館では年間30講座前後（延べ80日前後）を企画・開催している。講座は抽選となることも多くあり、また、自主グループの活動も多く、活発な生涯学習活動が展開されている。
年1回、自主グループの発表会があり、コロナ前の令和元年度開催では、81団体、1,500人の参加があり、作品展示や舞台発表、お茶席や体験コーナー（折り紙やゆる体操など）、ジュニアリーダーのバルーンアートなど公民館利用者だけでなく地域の方にも楽しんでもらえるようなお祭りを開催している。

1. 都道府県名	山梨県	3. 公民館対象人口	20361人	5. 来館者のインターネット接続環境	有線LAN
2. 市区町村名	甲斐市	4. 建物設置年月日	H23	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	2台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会）	<input type="checkbox"/> その他（ ）		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 530人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 22585人	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計 23,115人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input type="checkbox"/> 子ども食堂	
	<input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	
	<input type="checkbox"/> ICTの活用	<input type="checkbox"/> 防災	<input type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
	<input type="checkbox"/> その他（ ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター				
	<input checked="" type="checkbox"/> その他（1階2階が市役所庁舎、3階4階が竜王北部公民館）				
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（同一敷地内に竜王図書館、竜王北部公園がある。）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	
	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	<input checked="" type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input type="checkbox"/> 行政機関	
	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他	
	日本航空学園、(一社)星つむぎの村、(特非)パソナカール★あつとほーむ、(株)フォネット、(株)グリーンフォルト、甲斐市聴覚障害者協会、甲斐市文化協会、甲斐国際交流協会、青少年育成甲斐市民				

甲斐市竜王北部公民館

OPEN 8:30~22:00 H P
TEL 055-276-7511 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

コロナの関係で、多くの人が集まる公民館も、感染拡大を防ぐために限定的（不特定の皆さんへの開館ではなく、部屋を予約し使用する市民に限った）な開館となっている。公民館を利用している自主グループの発表会（舞台発表や作品展示、体験コーナー）も令和2年度は全面中止となってしまった。今後のwithコロナの中で、公民館が「まなぶ」「つどい」「むすぶ」という本来の目的を果たすため、市民に対してどのような取組みをしていけばいいのか。また、公民館として比較的年齢層の高い利用者が多い現状の中で、新たなターゲットである若年層へどのようにアプローチすればいいのか。新鮮な視点で、新しい風を吹き込んでいきたい。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

未来計画研究社が企画したMiraiプロジェクト（企業者団体のニーズや課題に基づいて、学生と協働で行うことを前提に設けられたプロジェクト）に参画し、**学生と協働することで、若者が公民館を知り、興味をもってもらえるように学生の視点を公民館活動に取り入れる。**

【参加学生】

- ・大学生4人（女性4人）

【目標（一部抜粋）】

- ・学生の視点での現状把握のレポート
- ・その視点に立った、新たな「ふれあい講座」の開催

【活動内容】

・YoutubeやSNSで解決できるようなものではなく、公民館だからこそできる講座をつくる。学校では教わらないこと、講義より実践を重視し、公民館若者応援プロジェクトとして、「一人暮らし力UP！How to 大掃除＆収納講座」、「自分磨き術パーソナルカラー＆簡単メイク講座」を開催。

- ・申込方法を従来の往復はがきではなく、初めて、インターネットによる申し込みを実施。
- ・周知方法としては、大学やコンビニ等でのチラシ設置、ラジオ出演・市公式LINE・参加学生によるSNSを利用した講座情報発信。



Miraiプロジェクト打合せ



オンライン講座（大掃除＆収納）

3. 取組による成果や効果

・「大掃除＆収納講座」では、一人暮らしを始めた学生も多く、初めての大掃除に向けて、公民館初のオンライン(Zoom)講座を開講。実際に受講者の家で困っていることを質問・回答する形式とした。

・「パーソナルカラー＆メイク講座」では、元ANA国際チーフパーサーを招いて、受講者が持参した服や持ち物から直接アドバイスする対面形式とした。

・いずれの講座も普段公民館を利用しない10～20代の若者が受講した。

・スマホアンケートを実施したところ、**聞くだけでなく自ら行動できる内容が高評価**であった。

・講座申込みのオンライン化やSNSによる情報発信が有効であり、今後、手続きのオンライン化に力を入れていく。



パーソナルカラー＆簡単メイク

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

各講座における申込人数やアンケート調査、公民館運営審議会(年4回程度)による調査審議等により、講座の内容や運営方法を改善し、次年度の生涯学習推進計画に反映している。

また、竜王北部公民館利用団体協議会において、役員会、運営委員会、視察研修会や会員学習会を開催する中で、自主グループからの要望等を聞き、公民館運営に活かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館が「まなぶ」「つどい」「むすぶ」場となるように、講座や研修、ジュニアリーダー活動など精力的に行い、『公民館という場を使って、楽しいことをしよう』をモットーに、ワクワク感を醸し出すような働きかけを行っている。年に1回、利用者と地域の方が集いにぎやかに楽しむ発表会に力を入れ、人と人、人と地域を結ぶ場の提供に努めている。



竜王北部ふれあい発表

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

大学生などの若者のニーズに対応できるよう、講座の企画内容や周知方法に工夫を凝らし、若い世代に関心を持ってもらうメニューを提供していきたい。

また、社会人が働きながら学ぶ機会が得られるよう、講座や体験活動の開催日や開催時間を工夫しより多くの市民がより多くの講座に参加しやすい体制を整えていきたい。



おやじストレッチ

ポストコロナの生涯学習を模索して

下諏訪町公民館

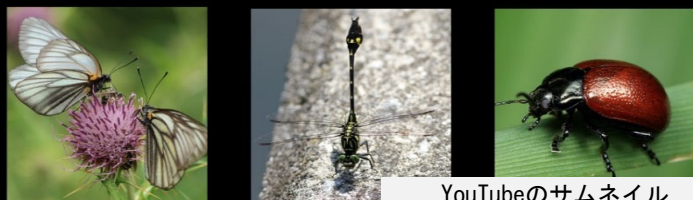


町民大学の様子

令和4年度 下諏訪町公民館 第1回町民大学

「小さな隣人 諏訪の昆虫たち」

自然写真家 青木由親先生



YouTubeのサムネイル

公民館の沿革・年表

1966年 下諏訪町公民館開館
 1989年4月 下諏訪町役場に隣接する複合施設「下諏訪総合文化センター」の完成に合わせて移転。公民館施設である視聴覚室、会議室、工作学習室、幼児室、展示コーナー等の他、文化センター施設の大ホールと小ホール、勤労青少年ホームの料理実習室、軽体育室等を有し、地域住民の文化の振興、福祉の増進に寄与してきました。
 2023年 機械・電気設備、ホールの舞台機構を含めた大規模改修を予定しています。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

令和4年6月に実施した下諏訪町公民館町民大学「小さな隣人 諏訪の昆虫たち」の講演の様子です。
 講師は下諏訪町出身・在住の自然写真家青木由親さん。諏訪地域で見られる虫たちの姿にクローズアップし、その魅力について語っていただきました。身近な虫たちの意外な一面に、聴講した方は固唾を飲んで見入っていました。
 講演の前後には写真展を行い、展示した写真は後日下諏訪図書館のデジタルアルバムに加えられました。また、講演は編集をし、現在YouTubeで配信を行っています。

1. 都道府県名	長野県	3. 公民館対象人口	19242人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	下諏訪町	4. 建物設置年月日	平成元年4月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2298人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 15415人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 613人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 18,326人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 3人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 5人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (文化センター・勤労青少年ホーム) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ()				

下諏訪町公民館

OPEN 8:30~21:30

TEL 0266-28-0002

H P

SNS

<http://www.town.shimosuwa.lg.jp>

下諏訪町公式チャンネル





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

これまで下諏訪町公民館では学級や講座を数多く実施、また、町の歴史・文化・自然等を取り上げた町民大学を開催し、町民のみなさんに生涯学習の場を提供してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの公民館と同様ほとんどの活動を中止せざるを得ない状況となりました。感染対策の進展により、公民館活動は徐々に再開されましたが、コロナ禍を経て起こった**全国的な学習環境の変化**と町民のみなさんが**I C Tを活用するための教育の必要性**が感じられるようになりました。

下諏訪町公民館では、コロナに翻弄されつつも手探りで**I C T**を取り入れた活動を続けています。同時に、コロナ禍以前からのテーマでもある**主体的な学びの場づくり**に努め、**地域の魅力**を再認識し、**人と人を繋ぐ**活動にも積極的に取り組んでいます。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

①代替としてのオンライン活用

新型コロナウイルスの感染拡大により、対面での講座が開催できなくなったときにオンラインを活用して講座を継続しました。

②町民大学等のYouTube配信

当日公民館に来られない方でも視聴できるよう、講座や町民大学の講演の様子を撮影、編集してYouTubeで配信しました。

③オンライン講座の実施

実際にオンラインを体験する機会を設けるため、Zoomを活用したオンライン講座を実施しました。参加方法は、自宅からのオンライン参加と公民館会場からのオンライン参加の両方を用意しました。

④町民向けの情報教育

町民の方が情報教育を受ける機会を確保するため、初心者向けのZoom講座とシニア向けのスマホ講座を実施しました。

⑤町民との連携、主体的な活動の推進

町の企画部署と連携し、町民の方がまちづくりについて自由に語りあう講座を行いました。この講座でも、随所にオンラインを活用しました。



オンライン講座
「K-popから学ぶ韓国語講座」



「下諏訪みらい塾」

3. 取組による成果や効果

・オンラインの活用によりコロナ禍でも公民館の活動を継続することができました。また、新しい学びの手法としてオンラインを取り入れることにより、これまで公民館と関わることが少なかった新しい層の方に働きかけることができました。

・I C Tへの関心、意欲のある町民（特に高齢の方）に対して教育を受ける場を設けることができました。適切な教育を受ければ年齢に関係なく、デジタル機器を使いこなせる可能性に気づかされました。



「Zoom初級講座」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

・公民館運営審議会に諮り、公民館の取組についてそれぞれの角度から様々なご意見を伺うなかで、よりよい方法を研究しています。

・広報誌に随時公民館活動の記事を掲載しています。町民の方に公民館活動を理解をしていただき、町民からもご意見をいただきたいと考えています。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

コロナ禍を経て、教育の場面には大きな変化が生まれました。今後はI C Tを活用した社会教育・生涯学習が当然となることを認識し、公民館側の成長と、受け手となる住民側への教育が必要と感じています。対面とI C Tの両方を活用し、公民館本来の目的である、人と人との繋がりが作り取り組んでいきたいと考えています。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

下諏訪町は人柄が穏やかで自然や文化遺産に恵まれた町です。下諏訪町公民館ではI C Tを積極的に活用して幅広い層の方に公民館活動に参加していただき、地域の魅力を伝えあい、活気ある公民館を目指していきたいと考えています。

地域の歴史文化を次世代に継承していくための人づくり

白馬村公民館



山麓めぐり 重伝建青鬼地区お善鬼の館の前で一休み



山麓めぐり 白馬村天然記念物 細野諏訪神社の大杉

公民館の沿革・年表

- 昭和31年9月 神城村と北城村が合併して白馬村が誕生、白馬村公民館が発足する。
- 昭和40年代 地域の観光化に応じて料理教室や村内めぐり等の活動が行われる。
- 平成19年9月 第50回村民運動会開催
- 平成29年3月 「戦争体験を語り継ぐ」発刊
- 令和元年5月 公民館講座 山麓めぐり第1グループスタート
- 令和2年11月 第50回白馬村文化祭開催
館報はくば500号発刊

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

白馬村公民館では、「山麓めぐり - 歩いて白馬山麓を一周する」という講座を毎年開催しています。地域の歴史・文化や自然環境を愛する住民が多く参加し、楽しみながら学び・つながり・健康づくりなど様々な効果・成果が生まれています。この講座のポイントは、地域の資源を語り継ぐ人を育てること、受講者の得意分野を活かして相互に学びあうこと。多様な住民が主体的に参画することで、持続可能な公民館活動につながっています。

1. 都道府県名	長野県	3. 公民館対象人口	8452人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	白馬村	4. 建物設置年月日		6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 658人 <input type="checkbox"/> その他 4196人（ <input type="checkbox"/> ）	<input type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 500人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計 5,354人		
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <small>（職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人）</small>	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 合計 3人			
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（公民館としての施設は有さず、庁舎に隣接する保健福祉ふれあいセンター内の教育委員会事務局に事務所を有する）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 白馬中学校、白馬北小学校、白馬南小学校、信州大学、白馬村社会福祉協議会等				

白馬村公民館

OPEN 8:30~17:30
TEL 0261-85-0726

H P https://www.vill.hakuba.lg.jp/gyosei/kosodate_kyoiku_sports_bunka/kominkan.html
SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

白馬村はスキーや登山など山岳観光の資源に恵まれ、国内外からの移住者も含めて多様な人々が暮らしています。村民の暮らしが営まれている里にも、歴史や文化、多様な生態系など、身近にありながら知られていない貴重な資源が多く存在しています。それらの資源を次世代にも受け継がなければならないという地域課題と、それらを学びたいという住民のニーズを背景に、地域の歴史民俗研究家に講師を依頼し、地域資源を学び語り継げる人材を養成することを目的として、「山麓めぐり - 歩いて白馬山麓を一周する」という講座を開講しました。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

■ 山麓めぐり - 歩いて白馬山麓を一周する

白馬山麓の里山地帯をぐるっと一周、約70kmの行程を、1日あたり約8km、9回にわたり踏破する講座です。各地域に存在する石仏群や社寺、古道、多様な動植物など、実際に目で見て、その場で聴いて、心で感じる学びを大切にしています。

令和元年にスタートした第1グループの受講生から約15名のガイド（講師）が養成され、歴史や民俗・自然環境などそれぞれの得意分野を活かしながら、現在は第3グループの受講者に多様な地域の資源を語り継いでいます。

参加希望者が多く、毎回抽選になる人気の講座で、これまでに約60名が受講しています。また、ガイドは自主的な勉強会を定期的に行い、様々な観点から地域の資源を語れるよう研鑽に励んでいます。

平成26年に発生した神城断層地震の被災状況について、信州大学と連携してデジタルアーカイブを構築しており、山麓めぐりの中でも震災アーカイブを活用して当時の被災状況や復興の経過を語り継ぐことで、地域の防災意識を高めることにも貢献しています。



姫川源流・親海湿原の生態系を学びます



馬頭観音、道祖神、庚申塔等が並ぶ石仏群
当時の暮らしや想いを馳せませす

3. 取組による成果や効果

【学び】訪れたことのない集落や、毎日車で通過して目にも留めない道端に佇む石仏群、季節によって移りゆく動植物など、これまで意識していなかった地域の資源を見つめ直す機会になり、村の歴史を偲び先人の暮らしを学ぶ貴重な機会となっています。

【集い・つながり】地元で生まれ育った人や国内外から移住してきた人など多様な参加者が集い、会話を楽しみながら長い時間にわたり行動を共にすることから、参加者が知見や経験を語り合い、講師からの学びだけでなく、相互に交流し学びあう機会にもなり、人と人との新しいつながりが生まれています。

【健康づくり】長い距離をゆっくりと歩くことで、高齢でも参加しやすく、幅広い世代の健康づくりにもつながっています。

【防災】震災アーカイブを活用することで、地域住民の防災意識の向上にも貢献しています。

【教育や観光への波及】学校における地域教育や観光客を対象とした歴史文化ツアー・復興ツーリズムのニーズに応えることで、教育や観光の面からも地域の活性化に寄与します。



参加者同士がつながり学びあいます



神城断層が地表に露出した断層崖で
震災アーカイブを活用して学びます

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

講座終了後に受講者にアンケートを取るなど、満足度や課題、要望等の把握に努めています。

公民館の各種事業について、各集落の分館長や公民館運営審議会、社会教育委員、教育委員に活動報告・事業計画を示し、意見をいただいています。また、全庁的な成果説明の対象として、広く一般に取組内容や成果を公表するとともに、議会議員に対しても説明・意見交換を行っています。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

白馬村の基本理念である「多様であることから交流し学びあい成長する村」の実現に貢献できるような活動や、地域の歴史や資源を活かした学びを大切にしています。

古くから変わらずに続いている学びと、時代の変化に対応した新たな学びのバランスを意識するとともに、デジタル化の波に置いていかれてしまう人や、言葉の壁により情報が伝わりにくい人が生じないよう、誰一人取り残さない地域社会の実現に向けて、公民館としての役割を考え続けています。



シニア向けスマホ教室

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

子どもたちや中高生なども含めた多世代や、海外から移住されてきた多国籍の住民が公民館活動に参加し、交流する機会を創り出していきたいと考えています。

地域や世代を超えて多様な住民が集い、つながり、学びあうことで、相互に理解を深めて尊重しあい、一人ひとりが成長して地域で活躍できるよう、地域住民の活動を支援する公民館でありたいと願っています。



多様であることから交流し
学びあい成長する村

「子どもを核とした地域づくり」

中津川市付知公民館



写真・付知公民館外観



写真・命を守る訓練「保育園と中学校の合同避難訓練」

公民館の沿革・年表

- 昭和24年 付知町役場内に公民館設置
- 昭和26年 5区新田に移転
- 昭和49年9月 山村開発センターとして 完成
- 昭和54年 トレーニングセンター完成
- 平成 8年 アートピア付知交芸プラザ完成
- 平成16年4月 付知町公民館に名称変更
- 平成23年 耐震改修工事完了

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

命を守る訓練は、地域ぐるみの防災教育として取り組むことで、幼少期から自助・共助・公助の意識を高め、付知地区で過ごす義務教育終了までの概ね12年間で、より一体的な防災意識の向上を図っている。

この避難訓練と防災体験を10年間継続することで今の保育園児は中学生になり、20年間継続すると親の世代となります。

10年20年と継続して行うことで、将来災害が発生してもお互いに助け合って災害を乗り越えることができる強いまちになることを目指し、「人づくり」が「まちづくり」に繋がっていき、地域住民の「横の繋がり」もできると今後も実施をしていく。

1. 都道府県名	岐阜県	3. 公民館対象人口	5238人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	中津川市	4. 建物設置年月日	昭和49年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (付知町まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2064人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3951人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 258人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 2108人 (図書室)				合計 8,381人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 4人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 9人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 13人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (アートピア付知交芸プラザ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (隣接する付知総合事務所やアートピア付知交芸プラザがあることで、地域住民の交流やつながりについての相乗効果がある。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他				

中津川市付知公民館

OPEN 9:00~22:00

H P lakatsugawa.lg.jp/soshikikarasagasu/tsukec

TEL 0573-82-3023

SNS t-machikyou@chic.ocn.ne.jp



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

当地域では高齢化や地域内で関係の希薄化、地域への興味の低下が進んでいる。また、公民館活動参加者や利用者の年齢層が固定している。その部分を解決するために、公民館から地域に働きかけ、子どもや地域住民を巻き込んでいくことで、地域の活性化と見直しができ、「人づくり・つながりづくり・ちいきづくり」につなげていくことを目指している。

そこで付知公民館では「子どもを核とした地域づくり」をキーワードに年間計画を作成し、毎年5月～1月まで保育園、幼稚園、小学校、中学校が参加できる活動を企画運営している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

（1）地域全体で連携して行う命を守る訓練

- ・保育園と中学生で行う命を守る訓練「合同避難訓練」
- ・各小学校（5,6年生）対象の命を守る訓練「防災体験」

（2）人とのつながりを促進する交流活動

- ・地域をあげての「付知町敬老会」
- ・中学3年生と付知町の良さや未来について語り合う「意見交換会」

（3）郷土の良さを味わう体験活動

- ・「お茶摘み体験」（小学3年生）
- ・「郷土料理の朴葉寿司づくり体験」（中学2年生）

（4）地域外の人に自分達の地域の良さを認めてもらおうとする活動

- ・「森林（もり）をかけぬけろ 付知サイクリング大会」



写真・小学5年生「防災体験」非常食炊飯体験



写真・北小3年生「お茶摘み体験」

3. 取組による成果や効果

- （1）・子どもを核とした取り組みを行うことで地域や地域住民との横のつながりや連携ができた。
- （2）・中学生との意見交換会を12年間継続してきたことで、一度地域を出てもいつかは帰郷したいと思う考える生徒が増えた。
- （3）・世代を交えた取り組みを行うことで、世代間での学びあいや交流を深めた。
- （4）・サイクリング大会ではSNS等でイベント案内をし、県内外から参加者が集まった。地域住民がコース誘導や各休憩所で地元特産品をおもてなしし、そこに中学生のボランティアに協力してもらい参加者から高評価を得た。地域外の人に自分達の地域の良さを知ってもらい、認めてもらうことで住民も改めて地域の魅力を見直すことができ、課題にも気づくことができた。



写真・サイクリング大会

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・参加者にはその都度アンケート調査を行い、出てきた意見に対して改善を図り、次回の取り組みに活かしている。
- ・各事業の実行委員会と事務局で企画と運営を検討し、事業実施後の反省会で成果と課題を明らかにして次年度の計画を立てている。
- ・命を守る訓練では、区長会や防災士会などの協力団体の意見を聞き、運営に役立っている。

例：保中合同避難訓練では、保育園から中学校までの避難経路の見直し等（壁が崩れる危険性等あるところを通過しない避難経路の作成など）

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・地域住民に、自分・周り・地域を見直してもらい、地域に愛着が持てる取り組みや仕掛けを考えていく。また、そのために集える場所としていく。
- ・地域の拠点として、人と人、人と地域を繋ぐ場所として、地域住民と公民館が「呼べば応える関係」を築いていくことで、信頼関係ができ、また地域課題や要望を拾い上げて実践していける場所になるように活動を行っている。



写真・町をあげての「付知町敬老会」

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

・利用者や行事参加者が偏りがちであるので、各世代に公民館とその活動に興味を持ってもらうために、中間世代である保、幼、小、中の保護者に公民館に関するアンケートを実施し53%の回答率があった。その中で、公民館を利用したことがある保護者が80%、利用したことがない保護者が20%だった。利用したことがある保護者は利用頻度が特に決まっていない人が多くみられた。公民館に期待する役割については、地域で子育てを支援する取り組み「子育て支援」と避難所等地域防災の拠点としての機能「防災の拠点」を選択している保護者が多くみられた。また、趣味等を身に付けられる場所として期待している保護者も多く、現在行っている活動が保護者へ周知出来ていない現状が分かった。子どもたちとの接点だけではなく、保護者に活動を知ってもらうことからもう一度始め、その先に保護者も巻き込んだ仕掛けづくりを行っていきたいと考えている。



写真・小学6年生「防災体験」段ボールパーティ



写真・小学6年生「防災体験」消火器訓練

「ふるさと ONE TEAM上之郷」

御嵩町上之郷公民館



公民館の沿革・年表

- ・昭和26年 9月 上之郷村の公民館として設置
- ・昭和59年 3月 新館の上之郷公民館が完成
- ・平成20年10月 上之郷地区スポーツフェスタを開催
- ・令和元年8月 「ふるさとONE TEAM上之郷」をテーマに盆踊りの夕べが始まる
- ・令和3年2月 御嵩町社会教育実践論文特別賞受賞
- ・令和3年7月 地区社会教育振興協議会研修会にて実践発表
- ・令和3年10月 岐阜県社会教育推進大会にて実践発表

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

山間地域で少子高齢化が進み危機感を持った上之郷地区では、公民館を中心に、まず住民が参加して地域を盛り上げる機会を持った。それが「盆踊りの夕べ」と題してのイベント。単なる盆踊り大会ではなく、保育園や小中学校をはじめ地域にある様々な組織が企画から関わって活躍できる場とした。そのキャッチフレーズが「ふるさとONE TEAM上之郷」。それを表すのが左上の模式図で地域住民が図案を考えました。企画から小中学生も参加して、当日は踊りや宮太鼓で盛り上げました。写真は中学生が踊りと歌で盛り上げた時の様子です。

1. 都道府県名	岐阜県	3. 公民館対象人口	1668人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	御嵩町	4. 建物設置年月日	昭和59年3月10日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	無し
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	383人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	840人	合計 1,484人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	261人	（同好会、各種委員会、卓球等）		
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任	0人	<input type="checkbox"/> 兼任	0人	合計 3人
	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人		<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人		
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input type="checkbox"/> 子ども食堂	
	<input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	
	<input type="checkbox"/> ICTの活用	<input checked="" type="checkbox"/> 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
<input checked="" type="checkbox"/> その他（長期休業中における子供の居場所づくり）					
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ）				
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（役場住民環境課の支所）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関	
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
	<input type="checkbox"/> 消防団、社会福祉協議会、交通安全協会、婦人の会、町商工会、自治会、婦人の会、子ども育成協議会、JAめぐみの				

御嵩町上之郷公民館

OPEN 8:30~17:15 H P
TEL 0574-67-0017 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 上之郷地区は中山間地域で人口減少と少子高齢化が進み、地域の活性化が従来より課題となっていた。具体的には従来からあった各種団体や組織が弱体化し多くの行事が中止となり、住民が参加する機会が減少の一途をたどっていた。最後に残された「盆踊りの夕べ」さえも存続するかどうかで意見が二分される状況であった。
- そんな中、「未来を担う子供たちに上之郷を愛する心を今こそ育てていくべきだ。」という意見が沸き上がり、保育園、小中学校、自治会等の組織が連携して、今までとは違う自分たちで作る上げる「盆踊りの夕べ」を目指した。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【ふるさと ONE TEAM 上之郷 ～盆踊りの夕べ～（地域学校協働活動）】
年間活動計画の中でも夏の盆踊りに焦点を当て、上記の地域課題解決に向けて取り組んだ。新たな活動や組織を起こすのではなく現有の組織を生かし、取り組む側の**主体性**を大切に意識改革に取り組んだ。（組織は前頁「ふるさとONE TEAM上之郷」参照）
具体的には以下の「7つの仕掛け」を考えて取り組んだ。

- ①保育園への出演依頼（踊る姿を保護者や祖父母に披露して家族の一体感を演出）
- ②放課後子ども教室での盆踊り練習要請と公民館役員等による踊り練習（文化クラブと公民館役員の指導で伝統復活のきっかけ作り）
- ③地域子ども教室での地域の方による「宮太鼓」指導（地域の文化伝承に携わっている人の指導による伝統文化の継承）
- ④小学生への七夕飾り依頼（途絶えていた七夕飾りを公民館と小学校で復活）
- ⑤盆踊り練習・指導（地域の民謡同好会の指導で大人も子供も一緒に参加）
- ⑥小中学生への踊り参加とボランティア募集（中学生はSDGsゴミステーション、会場準備、自校の茶園で育てたお茶の販売）…上之郷中の8割の生徒が参加。
- ⑦上之郷中学校OBや20代若者への屋台出店依頼（販売商品、仕入れ価格や販売価格などの企画から運営まですべてお任せ）



成功のカギを握る「7つの仕掛け」



運営方法の提案する中学生

3. 取組による成果や効果

【活動による成果・効果】

- 上之郷を元気にしたいという思いを地域住民だけでなく保育園、小中学校、各種の団体で共有できた。具体的には「地域がひとつになれる活動をこれからも大切にしたい。」「すごく楽しい盆踊りの夕べで上之郷がもっと好きになった。」「子どもたちの楽しそうな姿を見ると大人も元気になる。」などの感想が寄せられた。それは開催当日、小中学生や20代の参加者が過去に比べて増えていたことから伺われる。

【取組全体による成果・効果】

- 近年薄れつつある郷土愛と地域連携、住民相互の連帯意識が再確認できた。
- 公民館と地域と学校がよきパートナーとして連携できる仕組みを築くことができた。



町内公民館大会で成果発表

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 自治会長、町教育委員、小中学校長、地元議会議員、育成会長など20名で構成された公民館運営委員会を年度当初や必要に応じて随時開催している。
- 公民館長が地域学校協働本部会に参加して活動の情報交流や報告を行っている。また小中学校の学校運営協議会の一員としても参加し、活動の振り返りや多様な意見を踏まえた検証によりPDCAを意識した公民館運営を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

近年薄れつつある郷土と連帯意識を大切に、公民館と学校と地域が良きパートナー的存在として連携できる仕組みづくりに取り組んでいる。年間行事や活動に日頃から地域が関わる中でこうした意識が醸成されることを期待している。「盆踊りの夕べ」は、今後も地域住民総がかりで組織を生かした「中核となる集大成の場」として位置付けている。



地域の伝統「宮太鼓」を学

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

「盆踊りの夕べ」を通して築き上げてきた気運を継続するとともに、組織が効果的に機能するための人間関係づくりに努めていきたいと考える。地域学校協働活動では上之郷公民館が活動のキーステーションとして位置づいてきている。また小中学校との情報交換を図り日頃から連携を強化し、成果が相互に実感できる営み（WIN-WIN）の関係づくりを構築していきたいと考えている。



中学生の公民館訪問

誰からも親しまれ、気楽に立ち寄れるホットな交流館

静岡市岡生涯学習交流



交流館全景（オレンジ1・2階部分 周辺は高校）



ワークショップで意見発表する高校生

公民館の沿革・年表

- ・平成 5 年 旧清水市の地域館として岡公民館設置
- ・平成 1 5 年 静岡市と清水市合併、新静岡市誕生
- ・平成 2 0 年 公民館から生涯学習交流館へ移行
- ・平成 2 4 年 指定管理となる
- ・平成 2 6 年 静岡市と静岡県の高校再編により、交流館と隣接している清水商業高校（清商）が新設「清水桜が丘高校」となり、**交流館とあわせて複合施設として改築整備**され利用開始となる
- ・令和 3 年 優良公民館等として静岡県教育長賞受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 防災勉強会（避難所運営ガイドブック作成）
令和元年度、2年度の2か年計画で防災勉強会を開催した。勉強会では**隣接する静岡市立桜が丘高等学校、自治会、自主防災会の参加**のもとに初年度はワークショップ、講義を開催し災害時におけるいろいろなケースを想定した勉強や意見交換を行った。
ワークショップでは参加した高校生から積極的に意見発表が行われた。

1. 都道府県名	静岡県	3. 公民館対象人口	11996人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し	
2. 市区町村名	静岡市	4. 建物設置年月日	平成26年7月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数		
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（清水区生涯学習交流館運営協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1342人 <input type="checkbox"/> その他 0人（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 45801人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 2,682人	合計	49,825人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 6人 <small>（職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人）</small>	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 6人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他（教室等会費）					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（交流館のある建物は4階建てで、3、4階は高校の視聴覚ホールとなっている）					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 静岡市立清水桜が丘高等学校・岡地区連合自治会・岡地区社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> 岡地区まちづくり推進委員会・(株)青島文化教材社 等					

静岡市岡生涯学習交流館

OPEN 09:00~21:30 H P [http:// www.sgk-shimizuku-shizuoka.jp](http://www.sgk-shimizuku-shizuoka.jp)
 TEL 054-354-1350 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

岡生涯学習交流館は静岡市立清水桜が丘高等学校と隣接し、建屋の一部は交流館と学校視聴覚ホールの複合施設となっている。災害時には市の避難施設に指定されていることから、学校、地域、交流館で災害時お互いが連携し避難所運営がスムーズに行われることが重要である。交流館が取りまとめとなり、岡地区地域防災連絡会を開催し意見交換、情報共有等を行っている。連絡会メンバーは交流館・自主防災会・地域内の高校2校、中学校1校、小学校1校、こども園1園、そして市防災員である。避難所運営は自治組織が運営することとされているため、以前から運営について不安視する声があがっていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【防災勉強会並びに東日本大震災オンライン語り部講座（防災）】

2か年計画で災害時のいろいろなケースを想定した勉強会を開催し、地域に対応した避難所運営ガイドブックを作成した。ガイドブックをもとに地域住民を対象とした説明会を開催し災害における避難所について理解を求めることを目的とした。また、関連事業として、令和3年3月に10年を迎えた東日本大震災について実際に被害にあった方からの話をオンラインで聞く講座を開催し、地域住民の防災意識を高めた。

2か年計画の初年度の令和元年度は、月1回程度、高等学校、自治会、交流館と共催で、講義、ワークショップを開催した。テーマは、「平日の時間帯の地震にどのように対応するか、その時、学生の役割は何をするのか?」「夜間、休日の地震対応」「避難所における女性の役割など」。

令和2年度は、令和元年度の講義、ワークショップの意見を参考に、大学准教授監修による「避難所運営ガイドブック」を作成。地域住民を対象にガイドブックをもとに避難所運営についての説明会を行った。また、関連事業として令和3年3月に10年を迎えた東日本大震災については東日本大震災オンライン語り部講座を清水桜が丘高等学校の視聴覚ホールにおいて開催し、オンラインで災害時の様子から現在の復興状況を被害を被った南三陸町の現地の方から聞く機会を設けた。



防災勉強会の様子



オンライン語り部講座の様子

3. 取組による成果や効果

説明会に参加された地域住民は、「避難所に行けば行政やボランティアの人たちがお世話してくれる」と思っていたことが、今回の勉強会を通して間違った認識であったことに改めて気づき、本来の避難所のあり方を考えなおす機会となった。

具体的には、避難所においては、高齢者、乳幼児、身障者やトイレの設置場所や、特に女性に対する対応では十分配慮する必要があることを伝えることができた。

また、オンラインで実際に被害にあった方からのリアルな話であったことから地震、津波の恐ろしさや防災に対する日頃の備えに対する日頃の備えが大切であることを理解していただくことができた。



作成した「避難所運営ガイドブック」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

作成した「避難所運営ガイドブック」については自治会員、自主防災会員、防災女性の会員など多くの方々に対し説明会を開催し、連合自治会を交えての避難所運営訓練に活かされている。また、交流館、学校、地域、市が一堂に会する岡地区地域防災連絡会や概ね月1回開催している自主防災会定例会において情報交換を行っている。令和3年度には交流館と自主防災会との共催でガイドブックのフォローアップ講演会を実施するなどガイドブックが引き続き活用されるように取り組んでいる。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

生涯学習交流館は「学習の場」、「人づくりの場」、そして「人と人との交流の場」です。誰からも生まれ、誰もが気楽に立ち寄れる活力に満ちたホットな交流館であればこそ災害時などの非常時には地域住民のよりどころとなる施設となります。そのためには、地域と連携した交流館まつりの開催など、交流館活動への参加のきっかけとなる事業の企画が必要です。



小学生参加の交流館祭り（2019実施）

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

学習の場である交流館として、現代的課題をテーマとした講座は引き続き実施していくとともに、地域の次代の担い手となる若者世代が気楽に交流館に立ち寄り、様々な世代との交流を深められる講座や事業を模索していきたい。特に当館は高等学校との複合施設であり、その立地を活かした学校、地域、交流館の三者連携、共催事業を積極的に展開していきたい。



高校との共催事業（岡フェス）

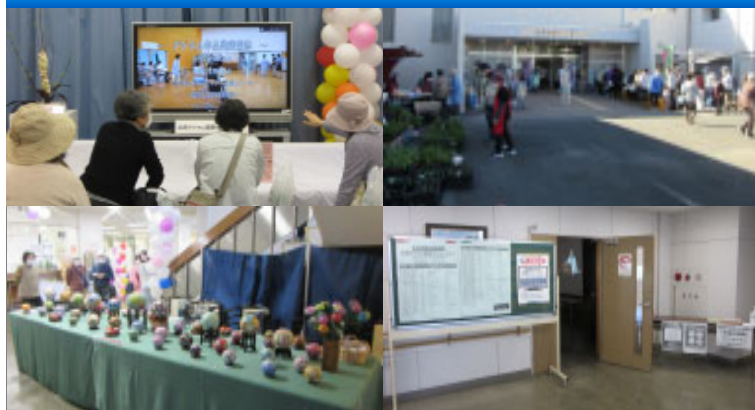
Connecting People !～笑顔でつなぐ地域の輪～

浜松市北部協働センター

第8回北部ジュニア公民館の様子（平成20年8月開催）



令和3年度北部デジタル協働センターまつり(協働センターまつり)



公民館の沿革・年表

- 昭和49年2月1日 北部公民館として開館
- 昭和51年度 優良公民館表彰受賞（静岡県）
- 昭和52年度 優良公民館表彰受賞（文部大臣）
- 昭和58年4月1日 北部公民館付設体育館開館
- 平成3年度 国際交流情報コーナー開設
- 平成13年8月 第1回北部ジュニア公民館スタート
- 平成19年4月1日 政令指定都市移行
- 平成25年4月1日 協働センター再編

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

★北部ジュニア公民館

地域の中学生在が、企画から運営まで行う、地域の子供向けイベント。学校・地域（北部生涯学習ボランティアの会）・行政（協働センター）が一つになり、異世代の交流と地域コミュニティの活性化を推進することを目的として開始。昨年度、第20回目を迎えた。例年来場者は2000人を超え、地域住民に親しまれている。

★北部デジタル協働センターまつり（協働センターまつり）

10ヶ所での協働センターまつりの在り方を検討し、芸能発表や展示発表の一部をデジタル化したことにより、通常開催時と同様の内容で開催することができた。

1. 都道府県名	静岡県	3. 公民館対象人口	42434人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN（Wi-Fi等）
2. 市区町村名	浜松市	4. 建物設置年月日	昭和49年2月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	15台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input checked="" type="checkbox"/> その他（浜松市）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1456人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1542人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 65415人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 合計 68,413人		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 30人	<input type="checkbox"/> 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人 合計 37人		
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（浜松市社会教育委員会）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> その他（認知症を正しく知ろうコーナーの常設（地域包括支援センター高丘等との連携事業））	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（市民サービスセンター、体育館） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（77の地域活動団体を抱え、子供、障がい者、高齢者と幅広い利用者を有している。）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 萩丘地区自治会連合会、葵・高丘地区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会、北部生涯学習ボランティアの会、北部協働センター地域活動団体、北図書館、浜松磐田信用金庫あずきもち支店、地域包括支援センター高丘 他				

浜松市北部協働センター

OPEN 8:30～21:30

TEL 053-436-5931

H P <https://city.hamamatsu.shizuoka.jp/c-hokubu/hokubu.html>

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

「北部ジュニア公民館」・・・地域には、幅広い世代、多国籍の住民が住んでおり、子供の人数が多い。しかし、中学生の居場所があまりなかった。そこで学校・地域・行政が一体となり、イベントの企画や運営を中学生ボランティアに任せることで、地域のボランティア育成、中学生の健全育成の重要な場となり、中学生の居場所作りにもつながると考え、活動をスタートさせた。

「北部デジタル協働センターまつり（協働センターまつり）」・・・コロナ禍でも安全・安心な環境で、地域で積極的に活動する団体の成果を発表することができるように、発表を映像化（デジタル化）し、多くの住民に視聴してもらえるようにした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

1. 北部ジュニア公民館

（1）**地域ボランティア育成の場と健全育成の場** 中学生ボランティアが中心となって、高校生、大学生、社会人のボランティア（北部生涯学習ボランティアの会）と協力しながら、企画や運営（リーダー決め、仕事の割り振り等）をしている。

（2）**記録集の作成** 活動を後輩に引き継いでいくため、毎年の活動の振り返りや改善点を記録集にまとめている。その記録集は20年分にも及ぶ。

（3）**オンラインイベントに関する技術的指導** コロナ禍でも開催を実現させるため、動画の撮影・編集・配信等の技術を中学生ボランティアに指導しオンラインで開催を実現させた。

2. 北部デジタル協働センターまつり（協働センターまつり）

（1）**地域人材の活用** 活動団体の発表・活動PR動画等の撮影や編集を業者に依頼するのではなく、“地域の力”を活かし、地域住民の協力を得て、VTRにまとめ、協働センターまつり当日に放映した。当日の様子も撮影し、後日協働センター内で放映した。

（2）**団体同士の交流と新たな形での協働センターまつりへの参加意識づくり** 動画等の撮影や編集等デジタル化を通じ、地域活動団体同士の交流が生まれ、協働センターまつりへの積極的な関わりにもつながった。



初のオンライン開催となった
第20回北部ジュニア公民館



北部協働センターまつり
当日の様子を撮影

3. 取組による成果や効果

1. **ボランティア活動しやすい環境・体制** 来場した小学生が中学生ボランティアに対し憧れの念を抱き、将来の中学生ボランティアが自然に育成されている。ボランティア活動を通しての人間形成、自然にボランティアができる環境・体制ができている。（第20回までのボランティア延べ人数・・・中学生1566人、高校生・専門学生・大学生315人、成人1393人）

2. **協働センターが地域の学びの場・居場所** 幅広い年代、多国籍の住民が集うことで、異世代の交流と地域コミュニケーションの活性化につながり、気軽に足を運べる場、住民のよりどころとなっている。

3. **地域活動団体の活性化** 活動内容を映像化したことから、団体の活動が明確になり、新規参加者や問合せが急増した。



憧れの中学生ボランティアのお姉さん

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

★北部ジュニア公民館では、ボランティア参加者からの改善点・反省点・意見等を**イベント記録集**（中学生ボランティア記録集）に収録。取組の検証・改善を行い、次年度につなげている。記録集の作成は、**中学生ボランティアが中心となり編集**している。

★北部デジタル協働センターまつり（協働センターまつり）では、各参加団体や来場者へ**アンケートを実施**。多様な意見等を踏まえながら、**北部協働センター運営委員会**で報告、検証・改善を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

★**Connecting People** 協働センターは、人が集い、つながる場所であれ！

★**やらまいか** ～新たな学び・チャレンジを応援しよう～

★良いアイデアは、“**雑談**”から始まる！



チャレンジを応援「ダイエット講座」

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

1. 異世代の交流により、「**豊かな心**」を育むことで、**地域の輪**を広げていく。

2. “**地域を大切に**する心”を持つ子供の育成

3. 伝統の継承と新たな挑戦 ～デジタル化～ 「**不易と流行の見極め**」



子供茶道教室から生まれた異世代交流

生涯学習や文化・歴史の継承・発信する拠点

大治町立公民館



公民館の沿革・年表

- 昭和55年 大治町立公民館開館
- 平成23年 公民館耐震工事
- 平成24年 文化財フェア開催
- 平成26年 学校支援地域本部設置
- 平成27年 町制施行40周年記念事業開催

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

当公民館では、住民の多様なニーズに応えるため、伝統ある神楽太鼓を継承している大治太鼓保存会の太鼓教室やシニア世代向けの連続講座や大学教授を講師として招いて連携する歴史講座などを開催しています。

また、町の伝統産業や暮らしを学ぶ機会を提供するため大治町の大きな特色である扇骨業に関わる道具や昔の暮らしの道具を当公民館に常設展示をして、文化・歴史の継承・発信する施設として役割を果たしています。

1. 都道府県名	愛知県	3. 公民館対象人口	33151人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	大治町	4. 建物設置年月日	昭和55年10月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	200台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 204人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 15713人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 15,917人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 9人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 9人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 18人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (社会教育委員会議)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (館内に図書室がある) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (大治小学校、大治南小学校、大治西小学校、大治中学校、大治太鼓保存会、文化協会、中部大学、愛知医療短期大学、愛知淑徳大学、愛知教育大学、東栄町、大治町教育委員会学校教育課)				

大治町立公民館

OPEN 火~土:9:00~21:00 日祝:9:00~17:00

H P <https://www.town.oharu.aichi.jp/町HP/>

T E L 052-443-2671

SNS <https://m.facebook.com/town.aichi.oharu>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

少子高齢化や情報化などによって社会環境が大きく変化し、公民館の利用者の多くが高齢化し、施設の利用が減少傾向にあることを鑑み、ライフスタイルが多様化している住民のニーズに即した事業や講座の内容を検討し、開催することが重要になっています。

また、多様な生涯学習機会の充実を図るために各種事業で連携・協働しながら、幅広い世代の住民が利用できるように環境整備に努めていきたいと考えています。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【地域学校協働活動】

学校・家庭・地域が連携協力し、地域住民等の参画による地域ぐるみで子どもを育てる体制を整え、学校教育の充実、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上を図るため、学校支援地域本部を設置し、各小中学校の授業の補助などの依頼に対応するため、コーディネーターが教育活動支援員として登録をしているボランティア派遣調整を行っています。また、スタディサポートクラブ事業として中学生対象に基礎基本や自学自習の学習支援を実施しています。

【社会教育事業】

子ども・家族・地域住民がふれあうことのできる活動を実施し、子どもたちのすこやかな成長を図り、家族の絆を深め、地域のつながりを広めることを目的とする体験活動事業と家庭教育推進事業を行っています。

【文化財保護事業】

町民から寄贈を受けた写真で、大治村時代から平成までを振り返ることができる写真展を開催しています。また、西公民館では、町内小学生の郷土学習の場として、今では使われなくなった昔の道具を展示する企画展を行っています。



授業補助（学校支援地域本部）



学習支援（スタディサポートクラブ）

3. 取組による成果や効果

地域学校協働活動では、住民と学校とのつながりが深まり、住民が得意分野を生かした活動を実施することができました。また、スタディサポートクラブでは参加した中学生が各個人で感じた課題や疑問について積極的に取り組むことができました。

社会教育事業の体験活動事業では、色々な自然を感じることができ、自然の大切さについて考える活動となり、家庭教育推進事業では、料理や工作を通じて親子のコミュニケーションづくりの機会を提供し、親子の絆の大切さを実感してもらえ活動となりました。

文化財保護事業では、昔の遊びを体験するコーナーや町に寄贈された民具などを説明し、児童への郷土学習の単元に関わる教育活動に寄与することができました。



体験活動事業

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験者で構成される社会教育委員会を年4回開催し、社会教育事業に関する計画や実施状況を報告します。内容に関して委員が述べた意見を事業の改善へと生かしています。また、事業ごとに参加者へアンケートを実施して、改善点などに取り組んでいます。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

住民が身近な生涯学習や文化・歴史を学べる拠点である公民館の各種事業に参加することで、人とのつながりや健康づくりなどのきっかけとなり、健康で楽しく充実した人生をすごしていただけるかを考えて事業を進めています。



家庭教育推進事業

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

今後、公民館と住民のつながりを強めて、生涯学習の機会や文化・歴史の継承・発信する拠点として地域に根ざした公民館活動を展開していきたいと考えています。また、新型コロナウイルスの影響により事業を中止せざるを得ない状況が続いたため、オンライン配信などによる事業で新規利用者を増やしていきたいと考えています。



企画展（文化財保護事業）

仮設暮らしのアウトリーチ

豊田市若園交流館



若園交流館 仮設外観



リモートでつなぐ地域の輪

公民館の沿革・年表

- ・昭和56年4月開館
- ・平成18年 指定管理者制度が開始され、豊田市文化振興財団が指定管理者となる
- ・平成26年増築 エレベーター設置
- ・平成27年増築 コミュニティホール設置
- ・平成30年 社会教育法上の公民館から地方自治法上の公共施設へ位置づけを変更。
- ・令和2年12月～令和5年2月（予定）仮設交流館
- ・令和5年4月供用開始（予定）

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 新館建替えに向けて、仮設交流館として運営
仮設施設になり、貸し部屋の減少や図書スペース、コミュニティスペースなどもなくなり、人が集いにくく、活動の場が少なくなった。しかし、地域内の他施設で事業を行うことで、新たな利用者の発掘、様々な人とのネットワークの構築につなげることができた。
- リモートでつなぐ地域の輪
コロナ禍においてもできる事業ということで、リモートによるイベントを開催した。交流館をメイン会場に、実演をリモート中継、サブ会場として自治区会館では、モニターを視聴しながら参加。親子連れや子供たちは安心して、楽しく参加することができた。

1. 都道府県名	愛知県	3. 公民館対象人口	14100人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)						
2. 市区町村名	豊田市	4. 建物設置年月日	昭和56年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	200台						
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（豊田市文化振興財団） <input type="checkbox"/> その他（ ）										
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1809人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 13558人（コピー、子育てサロン等利用者）	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 7452人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 703人	合計 23,522人								
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 5人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人）	<input type="checkbox"/> 兼任 0人 職員のうち社会教育士の数 0人	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 5人						
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）										
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（若園交流館運営委員会）										
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学							
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 図書館</td> <td><input type="checkbox"/> 学校</td> <td><input type="checkbox"/> 生涯学習センター</td> </tr> <tr> <td colspan="3"><input type="checkbox"/> その他（ ）</td> </tr> </table> <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（市民活動を促進し、市民活躍を支援するための、地域の「学びの場、交流の場、活動の場」）					<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	<input type="checkbox"/> その他（ ）		
<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター									
<input type="checkbox"/> その他（ ）											
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	豊田花園幼稚園、若園こども園、若園小学校、若園中学校、豊田南高校、トヨタ車体株式会社、若園地区子ども会、市民活躍支援課、地域保健課、豊田市社会福祉協議会 ほか						

豊田市若園交流館

OPEN 火曜～日曜日・午前9時～午後9時

TEL 0565-53-0028

H P

ph-wakazono@city.toyota.aichi.jp

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

若園交流館が改築建設中でプレハブ仮設での運営であるという状況とコロナ禍で活動場所が制限される中、交流館（公民館）〈以降、交流館と表記〉として、「学びの場」「交流の場」「活動の場」をいかに確保していくか。

また、新設の交流館は若園中学校との合築であり、このメリットを最大限に生かすためにも、中学校との連携強化は必須である。

さらに、交流館に足を運べない方、定年退職後どう地域と関わればよいか悩む高齢の方々に、いかに生きがいや、活躍の場を提供するかが課題である。コロナ禍で活動が制限される小・中学生の安全を考慮した取り組みも含め、地域での活動の継続や発展、活性化を支援する必要がある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【中学生ボランティアの機会を！トライ★やるボラ若園（地域学校協働活動）】

●若園中学校では、地域学校共働本部（豊田市独自の名称）と交流館による中学生ボランティア制度が活発である。コロナ禍において、地域コーディネーターと交流館職員が連携し、中学生と地域が関わる機会を創出し、交流館主催のコンサートのプログラム台紙づくり、シトラスリボンの取り組み、地域の伝統をふまえた俳句募集事業などを展開。

●運営の工夫・・・活動に先がけて中学校でのオリエンテーションでボランティアの心構えを学んだ後に、希望者がボランティアの登録を行う。中学生の自主性や積極性を尊重し、求人票を掲示して、自分で応募する形としている。



中学生ボランティア
「トライ★やるボラ若園」

【仮設交流館からのアウトリーチ事業（防災、地域住民の活躍、活動支援）】

●交流館が改築建設中の仮設交流館であるため、施設外の出張コンサートをはじめ、防災講座、ドローン体験教室、星空観望会、健康麻雀大会など各種講座のアウトリーチ事業を実施。

●仮設交流館であることのマイナス条件をチャンスととらえ、これまで実施がなかった自治区会館や近隣交流館と共催し、場所を借りて講座や事業を開催。

●運営の工夫・・・自治区長や共催の事業担当者と打合せを密に行ない、相互の事情を理解し、コロナ対策など来場者が安心して参加できる環境を確保。出張コンサートでは、参加者の年齢層にあわせた選曲、中学生ボランティアにプログラムの台紙作成を依頼するなど多世代交流の機会にもつながった。



防災講座「親子でサバイバル
たき火＆料理にチャレンジ」

3. 取組による成果や効果

交流館事業を交流館だけで行うのではなく、自治区会館などのより身近な施設での開催は、高齢者の外出機会を提供でき、身近な自治区会館には抵抗なく出かけられたと好評であった。コロナ禍で活動場所を探していた地元の演奏家の発掘、交流館を利用したことがない人への交流館事業の理解にもつながり、狭い仮設という不利な条件を克服できた。

また、コロナ禍での外出が心配されるなか、リモートによるイベントを実施し、複数の会場を中継しながら、イベントを実施することができた。マイナスの条件を克服した工夫は、今後の運営にも生かすことができる。



地域の人による、地域の人のための
音楽イベント「出張コンサート」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 講座や事業終了後には、参加者アンケートを実施し、充足率、満足度の数値化。職員ミーティングでの意見共有。
- 市内28交流館で行う交流館全体研究会での事例発表。好事例の横展開。
- 交流館の運営や課題について教育関係者をメンバーとする交流館運営委員会を年間2回開催し、意見交換をし、検証・改善を行う。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- あらゆる世代が、やりがいを持って学び、楽しく交流し、生き生きと活動できる拠点であるために、職員はコーディネート力を強化し、地域住民に寄り添いながら、それぞれの持てる力を発揮できるよう支援する。
- どこへ行っても「笑顔」で対応すること。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

2年の仮設交流館期間に連携を深めた各種団体（地域学校共働本部、自治区、近隣交流館）とのネットワークを生かし、地域住民のニーズをとらえ、地域資源のさらなる活用を図り、若園交流館単独に限らない事業を計画。

令和5年度の新館開館を好機に、行ってみたい、参加してみたいと期待される事業を実施し、地域の活動拠点として、地域、学校、企業が一体となり、地域に愛着を持ち活動、活躍できることを支援していく。



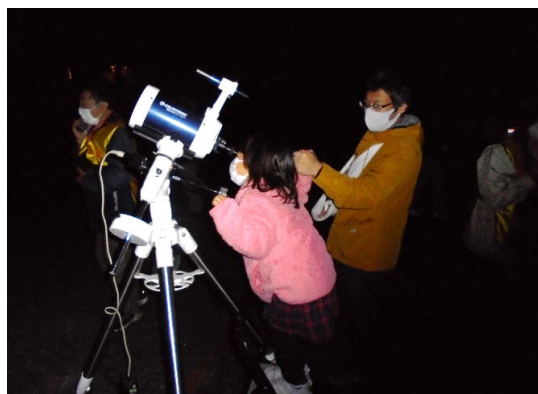
新若園交流館

『 人と人 学びあい 結びあい 』

木津川市南加茂台公民館



健康麻雀サークル活動の様子



親子でチャレンジ・星を楽しむ

公民館の沿革・年表

- ・昭和58年1月に、相楽郡加茂町（現在：木津川市）南加茂台住宅地域に開館。
- ・子どもから高齢者まですべての市民を対象として、公民館サークル連絡会に登録されている各種サークルおよび一般のサークル活動や講座の開講などを行い、学習機会や交流の場の提供に努めている。
- ・子どもから高齢者まで幅広い事業の実施や、子どもの居場所作りにつながる取組にも力を入れている。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- ・毎日講座やサークル活動が行われ、地域住民が積極的に参加している。
- ・高齢者のニーズに応えるとともに、地域住民の交流の場となっている「健康麻雀サークル」では、サークルメンバーが講師となって初心者講座を開設するなど参加者同士の交流も活発である。

1. 都道府県名	京都府	3. 公民館対象人口	79,601人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	木津川市	4. 建物設置年月日	昭和58年1月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 337人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 12466人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	12,803人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 5人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人	職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人		<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 5人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（ロビーに「声の広報」「議会だより」の音声テープを設置している。）	<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	

木津川市南加茂台公民館

OPEN 火・金・土：9:00～22:00
水・木・日：9:00～17:00

TEL 0774-76-5959

H P <https://www.city.kizugawa.lg.jp/index.cfm/8.4946.37.310.html>

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・南加茂台公民館の周辺地域は、少子高齢化が進み、住民同士の交流やサークル会員の減少などが課題となっている。
- ・コロナ禍でさらに住民同士のつながりが希薄になる中、学校、家庭、地域社会が連携・協働し、南加茂台公民館周辺の地域の子どもたちを見守り、育てていくことの必要性がある。
- ・「人生100年時代」を踏まえ、住民の学びへのニーズも多様化する中、様々な世代の地域住民の学習意欲に応える機会を提供する必要がある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

- ・文化系や運動系など公民館サークル連絡会に登録されている36のサークルや各種団体が公民館で活動を行い、地域住民の学習や交流の場となっている。
- ・「認知症の理解と共生社会」講座や「健康麻雀」講座を開講し、高齢者のニーズに応えるとともに、地域住民の交流の場となっている。
- ・生涯学習フェスティバル公民館まつりで、サークル活動の発表や作品の展示を行い、サークル活動参加者のモチベーション向上や市民の交流の場となっている。（令和元年度～3年度は新型コロナウイルス感染症拡大状況から、中止となったが、令和4年度は実施予定で取組中。）
- ・小学生を対象とした「公民館出前子ども広場」では、地域安全サポーターやボランティアが小学校で卓球やバドミントン、将棋などを教えたり、一緒に遊んだりして世代を超えた交流や子どもの居場所作りとしての役割を担っている。



ウクレレサークル発表会



公民館出前子ども広場

3. 取組による成果や効果

- ・公民館では、毎日、講座やサークル活動が行われ、地域住民が積極的に活動に参加している。
- ・健康麻雀サークルのメンバーが講師となり、「初心者のための健康麻雀」講座を6月から6回にわたり開講する他、サークル活動は毎日行われ、参加者同士の交流も活発である。
- ・サークル活動と公民館が共催し、親子で参加する「親子でチャレンジ・星を楽しむ」では、星のランタン作りや大型望遠鏡での星空観望を行い、自然の美しさに触れるとともに家族のふれ合いの時間となった。



親子でチャレンジ・星を楽しむ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・開講講座の参加者数等から、受講者のニーズや希望などを把握し、公民館講座や生涯学習講座のテーマに反映させる。
- ・市内の交流会館や文化センターと連携し、開講講座の受け入れや人数や駐車場利用状況などを考慮して講座開設を検討している。
- ・公民館運営審議会による評価を踏まえ、改善を図っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・地域住民が興味を持って楽しみ、受講講座をきっかけに参加者が自らの学びを広げたり生活を豊かにしたりすることができるような講座を検討している。
- ・子どもから高齢者まで幅広い世代に対応した講座や体験活動を開設することで、多様な学習機会を提供する。

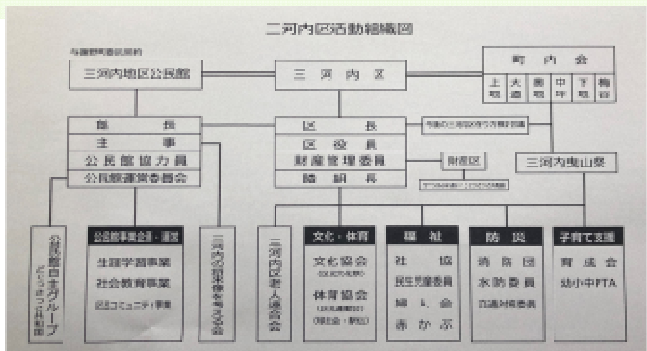


公民館出前子ども広場

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

地域住民に対する学習機会と交流機会の提供を充実させ、様々な分野にわたる学習活動の推進に努めていく。子どもから高齢者まで、幅広い地域住民を対象とした講座やサークル活動を充実させるとともに、地域の子どもの居場所作りにつながる取組も推進していく。

地域の将来を考える人材育成に取り組む公民館 与謝野町立三河内地区公民館



三河内区活動組織図



「三河内の将来像を考える会」

公民館の沿革・年表

- 昭和55年 「野田川町立三河内公民館」建設
- 平成4年 三河内地区公民館における公民館活動開始
環境保全、人権教育、人材育成について
事業を行い、町内の公民館活動を牽引する
- 平成17年 3町合併により
「与謝野町立三河内地区公民館」となる
- 令和2年 地域交響プロジェクト交付金(3ヵ年)
事業採択
- 令和3年 三河内の将来像を考える会を設立

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- ・町内で最初に公民館活動を実施した館である。
- ・区や町内会とも連携して活動を行っている。(左上画像)
公民館の事業企画・運営は主に、生涯学習事業、社会教育事業、区民コミュニティ事業といった、三河内区民を対象とした講座を実施している。
- ・三河内の将来像を考える会を設立(左下画像)。三河内区について学ぶことから始め、将来を担う人材育成に取り組んでいる。

1. 都道府県名	京都府	3. 公民館対象人口	1973人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	与謝野町	4. 建物設置年月日	昭和55年10月20日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (三河内地区公民館)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 329人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1093人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 1,422人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者 3人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 5人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (事業内容や利用者のニーズに応じて開館時間を変更する等、柔軟に対応している。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (学校PTA、家庭教育委員会、青少年育成会、与謝野町食生活改善推進協議会野田川支部 大学とは今後連携・協働する予定。)				

与謝野町立三河内地区公民館

OPEN 月～金 9:00～22:00 H P 無し
TEL 0772-43-0357 SNS 無し



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

元々は丹後ちりめん生産に関する事業による自営業者が多い地域であったが、ちりめん生産の減少とともに近年は勤めに出る人が増加したことに伴い、PTAや地域活動に参画することが難しくなり、自主的ではなく義務的になってしまっていることから、地域の事を自ら考えて動ける、地域の将来を担う人材育成を行う必要がある。

また、三河内地域について学ぶ時間も少ないことから、同世代連携、世代間交流が出来ていない状況も課題である。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

豊かな三河内地域社会（スポーツ活動、文化活動、経済活動など）の実現のため、地域内の人間関係を豊かにし地域社会の将来を担う人材育成を実施している。

中でも令和2年度からは京都府の「地域交響プロジェクト交付金」採択を受けて「与謝野町三河内地域における協働モデル推進型プラットフォーム形成事業」を実施、「三河内の将来像を考える会（三河内未来塾）」を推進している。

【三河内の将来像を考える会 令和3年度実績】

4月 年度初総会

6月 第1回フォト散策学習会

三河内を知る（丹後ちりめん工場）

10月 第2回フォト散策学習会

三河内を知る（倭文神社と屋台倉庫）

12月 第3回フォト散策学習会（写真展開催）

2月 年度末総会

三河内の将来像を考える会の活動としては、まず「三河内区を知る」活動から始めている。



フォト散策学習会のようす①



フォト散策学習会のようす②

3. 取組による成果や効果

三河内地区の現状や課題について把握し、「三河内の将来像を考える会」を設立。

まずは地域を知ることが目的として参加者が主体的に関われる事業としてフォト散策学習会を展開、撮影した写真で写真展を開催した。

写真展の開催にあたっては三河内地域の会社や事業所、公民館運営委員会参加団体などから協力いただいた。

さらに、写真展を行ったことで区民から意見が出たり、三河内地域の今昔について一緒に考える良い機会となった。参加（延べ）人数102人。



写真展のようす

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

現在は京都府の「地域協働モデル推進プログラム」で検証・改善が行われている。

公民館運営委員会により自己点検・評価を行っていることに加えて、与謝野町公民館運営審議会において、活動内容等を報告し、適宜助言等を受けている。また、教育委員会全体で取り組んでいる事業評価においても、公民館活動・公民館管理の両面で、外部有識者による点検と評価をいただいている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

昔開催していた「ちびっこ探検隊」や、現在も実施している「いっしょにつくろうひろごはん」、区民研修、地域のバンドやウインドオーケストラと連携・開催している「音楽講座」等のように、地域の人、コミュニティ、団体との交流事業を大切にしている。



「いっしょにつくろうひろごはん」のようす

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

区や地域とのかかわりを持ち続け、地域の人が集える公民館として活動を継続していく。

まずは設立したばかりの三河内の将来像を考える会が、支援員の任期が終わった後も自走できる形づくりを目標としている。また、今後、女性の参加を促す必要があるとも考えている。



迎春飾り講習会 集合写真

豊かに人と人がつながる公民館

新温泉町浜坂公民館



町立高齢者大学



プログラミング実習

公民館の沿革・年表

- 昭和27年 浜坂町青年団が青年学級を設ける
 - ・珠算簿記、漁業講座等、職業の新知识を磨く
 - ・相撲、フォークダンス、コーラス等のレクリエーション活動を行う
- 昭和29年 浜坂町が大庭村、西浜村と合併
- 昭和30年 浜坂町公民館設置条例制定
- 平成4年 浜坂町地区公民館規則制定
- 平成17年 浜坂町、温泉町が合併し新温泉町となる
 - 新温泉町公民館条例、新温泉町公民館規則制定

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 町立高齢者大学 宇都野学園（令和3年10月）
公民館が運営する宇都野学園は、4年制学部、2年制大学院にて構成されている。写真は開学したばかりの兵庫県立芸術文化観光専門職大学を訪れ、施設見学をしているところ。
- 図書館プログラミング実習室（令和3年10月）
町立加藤文太郎記念図書館との共催により実施。**公民館職員が指導を受け持つことにより、高頻度かつ継続的な開催を実現している。異なる学校・学年の子ども達が互いに学び合う場所となり、また、親子のふれあいの契機となっている。**

1. 都道府県名	兵庫県	3. 公民館対象人口	4144人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	新温泉町	4. 建物設置年月日	昭和59年9月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	256台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1846人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 20335人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 848人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 23,029人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (社会教育委員会による代替)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (多目的集会施設 (ホール、会議室等)) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (町立浜坂中学校、兵庫県立芸術文化観光専門職大学、新温泉町社会福祉協議会、町立加藤文太郎記念図書館)				

新温泉町浜坂公民館

OPEN 8:30~17:15

H P https://www.town.shinonsen.hyogo.jp/page/index.php?mode=page_list&cate_id=C0706

TEL 0796-82-4339

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 公民館事業の参加者は高齢者の割合が高く、生産年齢層や青年層の参加が少ない傾向にある。「伝統と文化を基盤に、多様な人々とつながり合い、豊かな人間関係を築く人づくり」（第3期新温泉町教育振興基本計画 令和4年度～8年度）を具現化するためには、多世代の人々が「つどい」「まなび」「つながる」という公民館機能の活性化が喫緊の課題である。
- 少子化により従来の子ども会事業が持続困難となり、大多数の保護者が交流を中心とした内容への変更を望んでいる。
- 「新温泉町の明るい未来を切り拓く人づくり」（同計画）に向け、住民の自治力を向上させることが必要となっている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【親子、仲間、地域の人々との交流事業】

● **チャレンジキッズ探検隊新温泉**…進学・就職で町を離れた子どもたちが郷土に戻ってくることを目的として川下り体験、ハイキング、釣り、マリンスポーツなどの自然体験や新温泉町の歴史を学ぶ体験講座を実施し、新温泉町の魅力を伝えている。また仲間や保護者、地域住民など多様な人々と交流し、つながることによって、豊かな人間関係を構築することの大切さを伝えている。新温泉町への愛着を育む取組として、館が対象とする地域のみならず、町全域を自然フィールドとし、町民と連携して公民館が実施していることに特徴がある。



チャレンジキッズ探検隊新温泉

【地域住民の主体的に生きる力を育む事業】

● **女性教養講座**…現在においても固定的な性別役割分担の意識が依然残っており、女性の能力を十分に発揮しにくい状況がある。そのため、固定観念にとらわれず、豊かで輝く女性を目指すことを目的とし、文化や教養などの座学や体験講座、人権学習を受講生自らが年間の講座内容を計画し、実施している。



図書館プログラミング実習室

● **図書館プログラミング実習室**（加藤文太郎記念図書館で実施）…地域の偉人である加藤文太郎のひたむきに努力する技術者としての精神を受け継ぎ、参加者のプログラミング思考と粘り強く取り組む姿勢を育むため、試行錯誤しながら学び合い、教え合うワークショップ型の講座を、図書館と連携し、実施している。児童の興味・関心に応じ、職員がきめ細やかなプログラミング学習の機会を継続的に提供している。

3. 取組による成果や効果

【親子、仲間、地域の人々との交流事業】

● 自然豊かな新温泉町での自然体験や歴史を学ぶ体験により、ふるさとを愛する心の育成ができています。また、親子・地域・異年齢の人々とのふれあいが深まることにより、次世代の地域を担う子どもの育成ができています。



親子ふれあいスポーツ体験事業

【地域住民の主体的に生きる力を育む事業】

- 公民館の事業に対して、自ら進んで参画しようという意識が高揚した。
- プログラミング学習に対する関心が高まり、実習室だけでなく、家庭においても自ら取り組みもうとする児童が増えた。同時に、親子がふれあう良い機会ともなっている。

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識経験者、町内各種文化団体役員（人権教育協議会・青少年育成推進協議会・文化協会・婦人会）、町連合PTA協議会長、町校長会代表者など12名で構成する新温泉町社会教育委員会を年間3回開催。（6月、11月、2月）
- 中央公民館である当公民館と、浜坂地域7地区公民館との館長会議を毎月（そのうち2回は温泉地域と合同）開催。
- 地域学校協働活動に関する内容については、町内各小学校の学校運営協議会で協議、検証している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 豊かに人と人がつながる。（地域の人々の中に主体的に生きる力を育み、学びの輪をつくる）
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会）や地域学校協働活動、芸文大、社協など、学校や地域、福祉機関と連携し、お互いが協力することのできる知的・人的ネットワークを構築する。
- 持続可能で「町民良し」「公民館良し」「地域良し」の三方が充実する公民館事業を行う。



高年齢者大学宇都都野
高齢者福祉協議会
と新温泉町との連携

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

公民館を「みんなが輝くまちづくり」の拠点とする。そのため、インクルージョンとダイバーシティを踏まえ、全ての人が生きがいや楽しみ、誇りを持って生涯を通じて主体的に学び続けることができるようにする。さらに、町民一人ひとりが「まちづくりの主人公」であるという意識と気運を高揚させ、みんなが知恵を出し合い、協働して「まち（地域）づくり」に参画する活動を展開していきたい。



外国人の人々と共に担ぐ神輿（諸寄祭）

仲間づくり・町づくりに取り組む社会福祉教育活動の拠点

加古川市立尾上公民館



高齢者大学が地域の祭りに参加



中庭のウッドデッキで料理の試食

公民館の沿革・年表

- 平成21年 浜の宮公民館を閉館し、尾上公民館が開設
- 平成21年 高齢者大学「浜の宮学園」33回生が開設
- 平成27年 尾上公民館が指定管理になる
- 平成27年 運営管理委員会開設
- 平成29年 運営推進委員会開設
- 平成30年 尾上公民館10周年記念式典挙行
- 令和元年 浜の宮中学校学校運営協議会に参画

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

○尾上公民館では講座を受講するだけでなく、高齢者大学生が地域の祭りに模擬店を出店したり、登録団体とのコラボレーションと一緒に活動したり、小学生を招いて折り紙やグラウンドゴルフなどを伝授したりするなど幅広い学習を進めている。
○尾上公民館の自主講座はヨガなどの運動系、歴史講座や川柳などの文科系、料理教室などの料理系、絵画やイングリッシュの子ども教室系など多くの講座を行っている。料理教室は新型コロナウイルス感染のリスクが高いため、屋外のウッドデッキで対策を取りながら、作った料理を楽しく試食している。

1. 都道府県名	兵庫県	3. 公民館対象人口	29600人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	加古川市	4. 建物設置年月日	平成21年4月13日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	20台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (尾上公民館運営管理委員会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2314人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 45037人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 3102人 ()				合計 50,453人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 4人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (自主講座受講料収入)				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (全部屋1階のバリアフリーの木造建築で、床暖房完備の部屋や喫茶、中庭にはウッドデッキにテーブルを備え、すべての年代が集える場所になっている)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 尾上町連合町内会				

加古川市尾上公民館

OPEN 9:00~21:00

TEL 079-423-2900

H P

<http://onoekouminkan.com>

SNS

<https://www.facebook.com/加古川市立尾上公民館-112497973814855>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・尾上公民館は駐車場も広く、全室1階のバリアフリー構造で床暖房設備の部屋や、オストメイト対応のトイレを完備した、幼児から高齢者や障がい者までみんなが使いやすい公民館である。しかしながら市の南西部に位置し、工場地帯のそばで、町の中心部から離れているため、知名度が低く、利用者の減少傾向が続いている。
- ・本館は町内会を母体とする指定管理館のため、町内会や近隣の小中学校との繋がりが深く、地域の各種団体や小中学校のPTAから選出した運営管理委員会や運営推進委員会を定期的に開催し、要望や意見を聞きながら運営している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【運営管理委員会と運営推進委員会により、的確にニーズを捉えて事業を実施する（取組全体）】

子どもから高齢者まで多様な市民が来館し集えるようにするため、市民のニーズや意見をより反映した運営となるように、運営に係る委員会を運営管理委員会と運営推進委員会に分けて設置し、機能的に活動できるようにした。運営管理委員会は、予算や運営に係る全体的な協議を集中して行う。運営推進委員会は町内会やPTA等の実務担当者で構成したため、学校や地域団体と密な連携を行うとともに、住民のニーズを的確に捉えて、講座を企画できるようになった。

他にも、来館者を増やす工夫として、講座内容の見直し、SNS等を活用した広報、ポイントカード制の導入を行った。ポイントカードは、来館した日に一度スタンプを押すことができる。ポイント数に応じて食事券などがもらえる仕組みで効果を表している。

【公民館改造計画～子育て世代を応援しよう～（未就学児と保護者）】

子育て世代を応援するために「交流ルーム無料開放日」を毎月設け、加古川市の子育て応援情報誌に掲載し、周知している。開放日は未就学児が絵本やおもちゃで遊んだり、親同士が交流をしたり、ボランティアによる子育て悩み相談も行い、子育ての悩みを解決している。



尾上公民館ホームページ



ポイントカードの宣伝

3. 取組による成果や効果

【取組全体による成果・効果】

- ・令和2年度より来館者が増加した。（昨年度比+36%）
- ・講座満足度調査で平均95.5%の高い満足度を得ている。（昨年度比+2.6%）
- ・令和3年度より開始したポイントカード利用者が増加している。

【子育て世代を応援しようの成果・効果】

無料開放日を設けたことで、子育て世代の方が定期的集まり、顔見知りになることで様々な情報交換の場となった。また、ボランティアによる子育てや生活のアドバイスが好評である。



交流ルーム無料開放日で交流を深める

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

本館では、学識者や自治会関係者、公民館利用者や各小中学校のPTAの方々を構成員とする委員会を管理委員会と推進委員会の2つ設置しており、事業面や予算、決算などの経営面での話し合いを持っている。PTAから出た公民館の活動がわかりにくいとの意見からホームページを開設することになったり、ポイントカードの具体的な運用について話し合いをしたことによって実現にこぎついたり、意見を吸い上げて改善やよりよい案に練り上げている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

地域の拠点となるよう、温かく、親しみやすい公民館を目指している。そのためには利用者との会話を大切にし、意見や要望などを真摯に受け止めたり、活動と一緒に参加したりしながら関係を築き、利用者に寄り添った公民館を目指している。また、夏には祭りの出店を計画したり、クリスマスに合わせてイルミネーションで飾ったりして市民の憩いの場になるよう努力している。



クリスマスイルミネーションでプレゼント

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

公民館があらゆる世代の集いの場となり、それぞれの世代が家族のように繋がりがあえる場所にしていきたい。受講生同士が交流し、教え合える場、高齢者が子育て世代の悩み相談や子どもたちに裁縫や昔の遊びなどを伝えたり、若い世代がスマホなどのIT機器を教えるような双方向で伝え合いのコミュニティを作っていきたい。



他の講座生が観る中でのロビー発表会

市民が主役のまちづくり

丹波市市民プラザ



大交流会時写真1



大交流会時写真2

公民館の沿革・年表

- 令和元年10月 市民プラザオープン
- 令和2年8月 来館者10,000人達成
- 令和2年12月 大交流会開催
- 令和3年4月 市民が設立した新法人による運営開始
- 令和3年8月 来館者20,000人達成
- 令和3年11月 大交流会開催
- 令和4年4月 指定管理者による管理・運営

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

丹波市市民プラザは基本理念である「市民が主役のまちづくり」の実現に向け、個性や多様性を尊重し、「参画と協働」に主眼をおき、新しい公共を担う「人づくり」と持続可能な「地域づくり」を目的とした支援を行うために設置している。

左の写真は、市民プラザが主催している「まちとわたしの大交流会」の様子である。様々な団体や属性の方が集まり、自身の活動の発表などを通じて交流を図っている。

1. 都道府県名	兵庫県	3. 公民館対象人口	62152人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	丹波市	4. 建物設置年月日	令和1年10月22日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	50台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (特定非営利活動法人 丹波ひまわり支援機構) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input type="checkbox"/> 学級・講座 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 372人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 300人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 10606人 (市民プラザがつなぎ役となり、市民活動や地域づくり活動に関する勉強会や交流会を実施)				合計 11,278人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 7人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 1人) 合計 7人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民活動団体の支援、NPO団体の支援、地域支援、人材育成、各種相談業務)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (子育て学習センター、託児室、男女共同参画センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (大型商業施設の一部を市民プラザとして借り上げ。その中に市民活動支援センター、男女共同参画センター、子育て学習センター、託児室がある複合施設)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他				

丹波市市民プラザ

OPEN 10:00~18:00 H P <https://www.tamba-plaza.jp/>
 TEL 0795-82-8682 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 丹波市市民プラザの目指す「**ごちゃませ**」（様々な市民・団体・グループが活動内容、世代、属性を超えて企画・参加・交流することができる場の意）の交流拠点を体現するため。
- リアルな会場での参加だけでなく、オンラインやラジオを活用したウィズコロナ時代に**どこからでも、誰でも地域や人とつながることができる場**を作るため。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【知る！出会う！つながる！まちわたしの大交流会（取組全体）】

丹波市市民プラザ内の各団体（市民活動支援センター、男女共同参画センター、氷上子育て学習センター）が主催し、事業を実施。運営主管は市民活動支援センターが行い、**各種団体の展示ブースや体験ブース、発表ステージ**をはじめとしたさまざまな企画を実施した。

また、大型商業施設内に設置している利点を活用し、プラザ内と商業施設の広場スペースをサブ会場にすることで、市民プラザ来館者のみならず、**商業施設利用者も幅広く参加**していただけるイベントとして実施した。YouTubeを媒体とした**ライブ配信**や、**地元コミュニティフェムと連携**し、ラジオを通じて会場内の様子を会場外に配信することで、**どこからでも、誰でも**がつながれる工夫を行った。**来場者数は約300名**。



大交流会 サブ会場

【地域コミュニティ活動の拠点整備（地域資源を活用したまちづくり）】

丹波市市民プラザが**プラットフォーム**となり、市民活動や地域づくり活動に関する勉強会や交流会を開催し、活動の担い手となる人材育成を行っている。また、多様な地域住民の参加・参画を促すために、情報誌やラジオ、SNS等を活用し、市民活動や地域づくり活動に関する情報を発信。さらに、活動や団体情報の蓄積、調査研究、活動への相談など総合的な支援を行っている。地域づくり活動の輪を広げながら、地域の方々と将来に地域のあり方を話し合い、持続可能な地域づくりを目指した取組を行っている。



TAMBA 地域づくり大学

3. 取組による成果や効果

【活動による成果・効果（知る！出会う！つながる！まちわたしの大交流会）】

- 多様な団体や個人が自らの活動を通じて交流することで、市民プラザの役割を体現したイベントとなった。
- 市民プラザ来館者の増加（昨年度比+7.1%）

【活動による成果・効果（地域コミュニティ活動の拠点整備）】

- 多くの市民がコミュニティ活動に関心を持ち、気軽に参加できるよう様々な活動に関する情報発信や活動に参加するためのきっかけづくりを進めた。
- 事業関係者、関係団体の拡充（昨年度比+191件）



来館者数20,000人達成

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識者、自治協議会関係者など15名で構成する市民活動支援センター運営委員会を開催。
- 市民活動支援センターの活動状況について振り返り、今後の計画に反映できるよう取り組む。それぞれの立場からの意見を踏まえ、基本理念に基づく運営ができるように話し合いを行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

施設内に設置している「市民活動支援センター」と「男女共同参画センター」の設置目的から、市民一人ひとりが輝き、活躍できることや、個性や多様性を尊重しながら、多様な主体と協働して行う「市民が主役のまちづくり活動」を支援していくことが大切である。



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

地域課題や社会的な課題に対応するためには、多様な主体の連携・協働による取組が必要である。地域住民一人ひとりの個性を大切にしながら、持っている力を十分に発揮できる地域であるために、多様な主体が参加・参画できる地域づくりへの支援を充実させる。



つながる・ひろがる・みのるーおらがまちの公民館

奈良市立都祁公民館



ため池でカヌー教室

公民館の沿革・年表

- ・昭和44年 都祁村中央公民館（旧都祁村）として設置
- ・平成17年 旧都祁村と奈良市が合併
奈良市立都祁公民館となる
- ※奈良市は平成13年から指定管理者による運営
（指定管理者は奈良市生涯学習財団）
- ※合併を機に、都祁公民館も同様となる



キッズつげザー(消防団体験)

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

（左図上）「子どもゆめ基金」の助成を受けて開催した「つげまるごと自然体験&発見(カヌー教室)」の様子。他にも「森探検」「川探検」「自然素材遊び」を開催し、親子で地元の自然を楽しみ、その素晴らしさを再発見した。

（左図下）「キッズつげザー(消防団体験)」の様子。消防団として頑張っている父親たちの姿をみて、地元の都祁を愛する気持ちを育ませたいと協力を依頼し、開催した。他にも、自主防災防犯会など、保護者世代の活躍を見せる講座を企画している。

1. 都道府県名	奈良県	3. 公民館対象人口	5078人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	奈良市	4. 建物設置年月日	昭和44年12月16日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	20台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 ((公財)奈良市生涯学習財団) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 760人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1400人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 2,160人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (子どもゆめ基金)				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (豊かな自然に囲まれた環境、近くに名阪国道等があり、車で来館しやすい)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ()				

奈良市都祁公民館

OPEN 9:00~17:00
TEL 0743-82-1362

H P <https://manabunara.jp>
SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 都祁は、縄文時代の遺跡や氷室跡、社寺、城跡などの歴史遺産や豊かな自然が多く残っている地域である。
- 平成17年に奈良市と合併、その後4つの小学校が1つに合併する等、少子高齢化や人口減少が地域の課題となっている。
- 各種講座や展示・発表の機会等により広範囲な地域をつなぐ社会教育施設として、地元住民からの期待が大きい。
- 合併から10年以上経過したが、以前の小学校区を基準にした意識が強く、都祁を一体とした意識の醸成が必要である。
- 次の世代の活性化に向けて、子どもたちや子育て世代を対象とした取組が求められている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【地域の環境を活かし、地域の活性化や地域外への情報発信を進める事業】

上記の課題から、**豊かな歴史遺産・自然環境を活用した講座**を開講し、講座や広報を通じて**地域の活性化と人とのつながりを意識した流れ**を大切にしている。例えば、「都祁散策」では、歴史遺産や自然環境を楽しむコースを設定、都祁スポーツ協会と共催し、安全確保や参加者とのふれあいを重視して実施した。終了後、**HP等で散策したコースの内容を紹介**している。「つげまるごと自然体験&発見(川探検)」では、旧小学校区を意識して場所を選定し、「山探検」では、県立野外活動センターを会場に、**地元の豊かな自然環境に触れる**等、親子で楽しみ、**故郷を再認識することで、愛着や誇りを醸成**した。また最近話題の「**外来種**」の侵入が少ないこと等、参加者にとって**意外な事実を学ぶ機会**になった。例年秋に、実行委員会形式で「つげまつり」を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度は中止した。自主グループ活動を停止した時期もあったが、徐々に制限が緩和され、展示や発表の機会を求める声の高まりを受け、令和3年度は「都祁公民館まつり」として公民館を利用する自主グループのみの展示会を開催した。規模は縮小したが、自主グループの会員とともに手作りで開催することができた。演技発表は、準備会の時点で感染が再拡大したため残念ながら中止したが、公民館以外の公共施設を拠点とする自主グループ代表者とも、顔をあわせて協議することができ、今後への足掛かりができた。



都祁散策



川探検

3. 取組による成果や効果

● 「川探検」「カヌー教室」「森探検」「星空教室」などの講座を、地域の小学校のWebサイト等も活用して募集した。地域の環境を活かした内容の講座に親子で参加する機会をつくることができ、何気なく過ごしている**都祁の素晴らしさや楽しみ方を見つけ、共有する動き**が広がっている。「森探検」で作ったバードコールを鳴らして、鳥の声を聴いたり、夜空を見上げて満天の星を楽しんだりする機会も増えている。● 広報紙やHPで講座の様子やスズランの群生地、谷川にかけられたこのぼり等を紹介することで、問合せだけでなく、見学・写真撮影等を目的とした訪問があり、地元住民の喜びになっている。● 「都祁公民館まつり」では、これまでは受動的な参加だった自主グループが、主体的に取り組むことで達成感を持つことができた。現在各グループの活動等において、**より主体的で積極的な取組へ移行**しつつある。



森探検

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

● 講座開催時には、参加者との会話を意識すること、講座終了後のアンケート調査から参加者の要望やニーズを把握した上で、講座を振り返り、改善点を探り、今後の取組に活かすようにしている。講座の様子は随時HPで紹介し、**参加者ばかりでなくHPを見た方から感想が寄せられる**こともあり、講座企画の反映材料となっている。令和元年度開催の講座「おしゃべり会」では、「**都祁の未来を担う子どもたちを大切にしたい運営を期待したい。**」との声があった。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

これまで、地域の豊かな自然や歴史遺産、地域の人材の活用を意識した「**おらがまちの公民館（人が集い、楽しみ、つながりあう公民館）**」づくりを目標にしてきた。令和元年度より中学校区の地域教育協議会に加入し、新たに「自主グループ代表者会」を結成した。今後、「**自主グループ連絡協議会**」への移行を図っていくことで、「おらがまちの公民館」づくりへつながるよう進める。

都祁公民館	公民館の目標と年次計画	令和4年度
5年後の目標	つながる・ひろがる・みのる—おらがまちの公民館	
令和4年度 2022年度 目標	おらがまちの公民館（人が集い、楽しみ、つながりあう）5年目（公民館）づくりの実現。	
	公民館の目標と年次計画	

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

人が集い、楽しみ、つながりあう公民館の具現化につなげていきたい。そのためにも、公民館主導の「自主グループ代表者会」から、利用者主体の「自主グループ連絡協議会」へと組織改革し、**主体的な活動を活性化**させることで成長・発展させていきたい。



プチ田舎暮らし 野菜作り

過去・現在・未来 くじらと関わり続ける町の公民館

太地町公民館



公民館報「鯨波」



夏休みお助け教室（イルカの耳の骨のレプリカを作ろう！）

公民館の沿革・年表

- 昭和24年8月5日 太地町公民館発足
- 昭和25年6月 公民館報創刊号発行
- 昭和29年1月1日 公民館報を「鯨波」とする
- 昭和57年4月1日 公民館建物新築開館
- 平成28年3月5日 館内エレベータ設置

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

太地町公民館は、町の社会教育基本方針に則り「豊かな生活を支援する」「公民館報の内容充実」「幅広い年齢層が参加できる各種事業の企画」を目標に活動している。

上段の公民館報「鯨波」は2か月に1回発行しており、生涯学習講座の記事や図書室だより、俳句や短歌の紹介、太地町に移り住んだ家族や県外に住む太地町出身者の紹介など、内容の充実に努めている。下段の「夏休みお助け教室」は小学生を対象にした講座で、夏休みの自由研究のヒントを提供する講座である。町内にある「くじらの博物館」の学芸員が講師となり、毎年実施している。

1. 都道府県名	和歌山県	3. 公民館対象人口	2,919人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	太地町	4. 建物設置年月日	昭和57年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 220人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8,534 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,020人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 550人 ()			合計	10,324人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 2人			
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 学校	<input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター		
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他		

太地町公民館

OPEN 8:30-22:00

H P

TEL 0735-59-2335

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

太地町は古式捕鯨の発祥地として、江戸時代から現在まで400年以上捕鯨が行われている。住民の大多数が捕鯨関係の仕事に従事し、町は発展してきた。現在は、鯨を中心とした観光に力を入れ町の活性化に努めている。平成18年に「太地町くじらと自然公園のまちづくり構想」を発表し、「過去・現在・未来くじらに関わり続ける町」、「住民が公園の中に住んでいるような町」、「健康であり続けたいと願う行動する町」、「子どもたちを学校と地域が一体となって育てる町」の4本柱を立て、まちづくりを進めている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【太地の歴史に関する講座（地域資源を活用したまちづくり）】

「古式捕鯨絵図から学ぶこと」、「鯨遺産として残される鯨の墓」など、鯨文化に関する講座や、戦国時代の太地や町の水産業の発展など幅広く太地の歴史について学べる講座を開設している。また、太地町は移民の町でもある。「太地の移民史～在米太地人会100周年～」など、移民をテーマにした講座も企画している。講師は、町歴史資料室の学芸員・研究員、町文化財保護審議会委員などが担当している。

【博物館・美術館と連携した講座（地域資源を活用したまちづくり）】

太地町は、人口3,000人未満の小さな町ながら、博物館（くじらの博物館）と美術館（石垣記念館）を備えている。この強みを生かし、公民館へ博物館学芸員を講師に迎え、博物館の働きについて学べる講座を開設している。学芸員にとっても、町民に博物館の活動を知ってもらう機会になっている。美術館では、太地で生まれ育ち、移民としてアメリカで活躍した画家、石垣栄太郎氏の作品を展示したり、同氏を題材にした講座も行ったりしている。町内の社会教育施設間で、人と学びの循環が起こっている。

【「在米太地人系クラブ」「関東太地会」「関西太地会」の存在】

太地町出身者の同郷組織の事務局を公民館が担当している。アメリカに「在米太地人系クラブ」があり、ふるさと太地との交流を行っている。公民館報「鯨波」に、「関東・関西太地会だより」のコーナーを設け、県外に住む太地町出身者の近況を紹介している。



美術館での講座



学芸員による講座

3. 取組による成果や効果

- ・講座を通して、町民の多くが太地町の素晴らしさを語れるようになってきている。一方的な座学だけでなく、フィールドワークやワークショップ、ディスカッションも取り入れることで、参加者同士の学びや交流が深まっている。結果として、他の講座への参加者が増加するという効果も出てきた。
- ・町内の博物館、美術館と互いに連携することにより、学芸員が活躍できるフィールドが広がっている。また、町民にとっては、学芸員という職業が身近な存在になっている。



フィールドワーク

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・すべての講座において参加者からアンケートをとり、次回以降の改善に生かしている。
- ・公民館運営審議会は年3回、公民館主事会は月1回実施し、事業の検証や改善を行っている。
- ・公民館報「鯨波」に講座内容を掲載している。担当者が記録化することで、講座の企画や運営を振り返る機会になっている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・気軽に講座に参加できるよう、太地近隣に在住している方を中心に講師をお願いしている。
- ・公民館報「鯨波」を2か月に1回発行することを継続している。館報を各家庭等に届け続けることで、太地町民、太地町出身者のつながりを大切にしている。



太地会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ・太地町は、福祉の町づくりも目指している。年を重ねても生き生きと過ごせる町づくりを目標に、公民館を高齢者の集える場所にしていきたい。
- ・4本柱の一つ「子どもたちを学校と地域が一体となって育てる町」を大切に、太地の町を知り、誇れる子どもを育成できるように、引き続き学校や地域と共に取り組んでいきたい。



若者と小学生による鯨踊



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

少子高齢化、人口減少が進む大山町において、人と人とのつながりの希薄化が進み、地域の活力が低下している状況が深刻化している。高齢者に対しては、人生100年時代と言われる昨今、老々介護や独居高齢者の問題が進行しており、いつまでも大山町で健康で心豊かに幸せに暮らせる環境づくり（場の開催と運営者の育成）が求められている。また、子どもたちにとっては、子どもの少なさによる地域における子ども会活動の減少、いろいろな大人に触れ合う機会や様々な分野における体験・経験不足が子どもの自立や自己肯定感の認識に影響を及ぼしている現状がある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

① 高齢者学級

高齢者を対象に、コロナ禍においてもできる範囲で交流をしたり関係性のつながりをつくらせたりするきっかけづくり、生きる力や生きがいを見つけ、人生100年時代の日々の生活を張りのある幸せな人生につなげていただく。月に1回、年8回程度の開催。事業構成は、午前中講座を聞き、午後には体を使った活動を行い、ボイストレーニングなど、健康寿命の延伸にもいい影響を与える運動を取り入れる。住民の学習ニーズをに応じた情報収集と実施につなげることで住民に飽きさせない、継続的な取り組みとなるよう工夫している。職員や住民を含めた運営側もファシリテーション技術など現場での体験を通し、知識と技能向上できる体制としながら、民間団体との協力体制も促進し、持続可能な環境づくりを目指している。

② セカンドホーム（通学合宿）

小学校4～6年生を対象に、地域の大人たちとの触れ合いや様々な野外体験、人間関係形成の経験を積ませるため、非日常である放課後の生活を共に過ごすことで子どもたち個々の成長につなげる。学校期間中の1週間の期間実施。子どもたちは、学校終了後、大山青年の家に向かい、夕方から朝まで合宿を行う。学年が混合のグループで洗濯や夕食づくりなど日々の生活に必要な活動のほか、野外炊飯体験、植物観察会、カヌー体験など、外で体を使い、友達と協力して取り組みを成し遂げるきっかけを与える。また、小学校や地域団体、住民ボランティアとの連携から、学校では学べないような地域独自の特色を生かした多様な学習や主体性を伸ばす指導なども展開している。



ボイストレーニングの様子



野外炊飯体験の様子

3. 取組による成果や効果

① 参加される方は、熱意をもって参加いただき、元気に過ごされている。やりがいや新しい学びに喜びを感じ、継続参加の好循環を生んでいる。また、参加者は、お住まいの集落への学びの共有やコロナの影響による引きこもりの方へのアプローチなど副次的な連携ができています。今後は、ニーズを感じているスマホ講座やオンラインの取り組みなど、幅広い参加が促せる環境づくりに取り組んでいくため、高校生・大学生を講師に招いての世代間交流やデジタル基盤整備の入り口としての取り組みも進める。

② 集団生活や学年混合のグループが子どもの自主性と自己肯定感を養い、社会性を身につけるいいきっかけとなっている。上級生がいい目標となり、継続的な参加と子どもたちの成長に寄与する事業である。今後は、運営側の連携体制に中・高・大学生との接点を持たせ、主体的に地域活動に関わり学んだことが生かせるような、それぞれの強みを生かした学びあえる環境づくりを目指していきたい。



グループワークの様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

大山町の社会教育実績と社会教育計画を毎年度作成し、公民館運営審議会（委員15名）にて実績の評価検証とそれに付随した計画の策定を行っている。年度当初（5月）には、評価と計画内容の確認。年度中途（10月）には、取り組み状況の確認と次年度事業のアイデア出しを実施。年度末（3月）には、実績の内容確認と次年度事業の確認を行い毎年の事業の発展につなげている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

① 公民館活動で、地域自主組織等との連携により、各地域の資源や特色を活かした学習機会の提供や事業に取り組む。② 講座・学級などについて学習内容の充実を図るとともに、若年層の来館利用につながる学習機会の提供に取り組む。③ サークル活動の活性化を図るとともに新サークル立ち上げ支援に取り組む。



地域資源を学びます

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

公民館の老朽化が進み、ハード整備の必要性が迫っている。住民の声をしっかり聞き、地域課題の解決に向けたソフト事業の充実に合わせて、事業が十分に行える環境整備を整える。また、様々な分野（福祉・防災・子育て等）の行政施策に付随し、多世代が集える住民活動の拠点として活用いただける施設を目指す。



大山公民館と桜

若者の発想を取り入れた新しいまちづくり

鳥取市立美保南地区公民館



夏休みサマースクール

公民館の沿革・年表

- ・昭和62年 美保地区から分離、美保南地区公民館開設
- ・平成 4年 美保南地区公民館竣工
- ・平成17年 子育てサロン（乳幼児の親子対象）開設
- ・平成20年 美保南まちづくり協議会設立
- ・平成29年 市立美保南小学校学校運営協議会に参画
- ・令和 2年 公民館における若者まちづくり事業の開始
（夏休みサマースクールの開催）

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 夏休みサマースクール(体験学習)
公民館とまちづくり協議会による協働事業で、小学校で実施。若者たち(大学生)が企画・運営し、公民館・地域・学校がサポートしている。5日間の日程で、1時間勉強の後2時間程度遊びやゲームなどを楽しむもので、54名が参加した。写真はゲーム（フルーツバスケット）を楽しんでいる様子。
- 地域イベント『子どもお菓子教室』（公民館事業）
ホワイトデーに向け、大学生が考案したレシピでお菓子づくり。9名の子どもたちが参加。講師の大学生とも打ち解けて楽しそうにお菓子作りをしている様子。



子どもお菓子教室

1. 都道府県名	鳥取県	3. 公民館対象人口	7842人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	鳥取市	4. 建物設置年月日	平成4年3月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	100台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市長部局補助執行による)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 4318人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8881人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 461人	合計 13,660人		
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 4人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (多世代間交流、特色ある公民館活動、食事サービス)				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (ロビーに冷温水機を備えることで、コーヒーやお茶を飲みながら談話できる憩いの場として提供している。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (のぞみ保育園、鳥取市立美保南小学校、鳥取市立南中学校、公立鳥取環境大学、美保南まちづくり協議会、美保南地区社会福祉協議会、美保南民生・児童委員会、株式会社メモワールイナバ ほか)				

鳥取市美保南地区公民館

OPEN 9:00~22:00 H P <http://chiiki.city.tottori.jp/minami-1/>
 TEL 0857-53-4798 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

夏休みや冬休みの間、勉強をしに公民館へ子どもたちがやって来るが、ほとんどの時間がただなんとなく遊んでいる状態であったことから、子どもたちの勉強と一緒に遊んだりすることができる若者たち(中学生～大学生)を探していた。

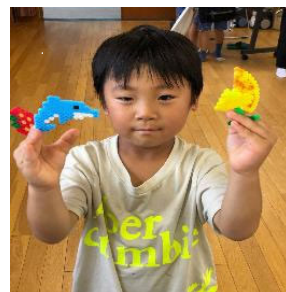
子どもを育むまちづくりを進めている中、当公民館が参画している小学校のCSが先生に行ったアンケートで、「勉強を地域の方に見てもらう機会を作ってもらえないか」などの意見があったことから、若い世代の発想を取り入れた新しいまちづくりを進めていきたいと考えていた。

このため、市の「公民館における若者のまちづくり事業」を活用し、若者の新しい発想を取り入れたまちづくりに取り組むこととした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【夏休みサマースクール（若者のまちづくり参画）】 上記課題から、夏休みの宿題と併せて体験してもらおうことで子どもたちに創造力・人間力を養ってもらおうと、令和2年度から開校した。学校との連携を考慮して小学校の多目的ホールを利用している。実施にあたっては、方向がぶれないよう基本方針を示し、若者の柔軟で斬新な発想を活かすため、「若者まちづくり事業」に応募した4名の鳥取環境大学生に企画・運営を担ってもらい、公民館は子どもや地域ボランティアの募集などを担当。また、学校・関係者にプレゼンし情報を共有することで、先生による学習のサポートを得ることができた。参加した子どもたちからは、「楽しかった。来年もやってほしい。」と好評であった。令和3年度は大学生を6名に増員し、地域の中・高生10人も加わって協議を重ねながら企画を練ってきたが、直前の新型コロナウイルスの感染拡大によりサマースクールは中止した。しかしながら、楽しみにしていた子どもたちのため、サマースクールの一環として企画していた「夏休み工作教室」、「星を観る会」を単独で実施。「工作教室」は、竹灯籠の材料の調達・準備を地域のボランティアが担当、製作指導には学生が担当し、地域住民と学生が連携した取組を行った。「星を観る会」は、募集チラシの作成を中学生に、天体の映写・観察・機材調達等の運営は星の専門である鳥取環境大学天文部の学生が担当するなど若者同士が連携した取組を行った。

【地域イベント等（取組全体）】 サマースクールを機に、学生とのつながりが強まり、公民館事業(男の料理教室・子どもお菓子教室)や地域のイベント(子ども祭り・文化祭など)においても、若者が講師やスタッフとして積極的に運営に参画している。



サマースクール(アイロンビーズ)



男の料理教室

3. 取組による成果や効果

- 学生の豊かな発想や奇抜なアイデアを取り入れたことで子どもたちにより楽しんでもらえる内容となり、イベントへの子どもたちの参加者が多くなった。
- 学生・地域・保護者・先生との連帯感が生まれ、つながりが強くなった。特に学生とのつながりが強まり、いろいろな面で協力が得られる。⇒ 新しい取組へと展開。
- 地域の中・高生がサマースクールに参画して大人と一緒に子どもをサポートすることが、将来のまちづくりの担い手育成につながる。
- 若者と交流することで、若者の新しい発想・考え方などに地域住民が刺激を受け、地域の魅力の創造や活性化につながっている。



公民館改善に向けた協力

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

サマースクール実施後に、参加した学生やボランティアで反省会を開催し、担当ごとの振り返りや改善点等について意見交換を行い、次回に向けた検証・改善を行っている。それには、令和元年にまちづくり協議会が地域住民を対象に行ったアンケートの中で、「公民館が行っている生涯学習や文化活動・行事について"参加したいものがない"・"関心がない"」との回答が多かったことから、サマースクールに参加した学生と魅力ある公民館事業に向けた意見交換を行い、学生から出た意見・アイデアなどを今後の公民館運営に活かしていくこととしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

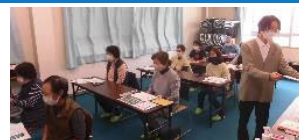
地域住民の方たちが気軽に寄ることができ、公民館を訪れた方たちが「楽しかった」、「また来たい」と思ってもらえるよう「つながり」を大切にしている公民館でありたい。そのため、公民館ロビーの一角に教養講座等の作品を展示したり、冷温水が出るウォーターサーバーを設置し、訪れた方たちが冷たいお水や温かいお茶やコーヒーを飲みながらくつろいでいただけるようギャラリーを兼ねた休憩室を整備するなど工夫を凝らしている。



コーヒーを飲みながら談話

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 公民館に求められる講座や学習内容が高度化・多様化している中において、公民館職員だけでは対応が困難な場合も出ており、今後は、専門的な技術・知識を有した会社やNPO法人等の発想を取り入れるなど、民間企業やNPO法人等との協働による公民館運営にも積極的に取り組んでいきたい。
- サマースクールを「子どもの居場所」として、定期的に開設できるよう検討していきたい。



企業が行うスマホ教室